



日本竹譜

中

和装本
二 14
504
2



門 24
號 504
卷 2

日本竹譜卷之中



斑竹

斑竹ハ名稱方言多ク斑竹ニ三種アリ、淡竹種ニシテ斑文アリ、雲斑ヲ爲スモノアリ之ヲ斑竹又雲斑竹又虎斑竹ト稱ス、山城、日向、丹波、丹後等有名ノ產地タリ、又含朶竹ノ類ニシテ斑文アルモノアリ亦虎斑竹ト云フ、肥後八代郡、駿河下總ニ

片山直人著

小野職愨校

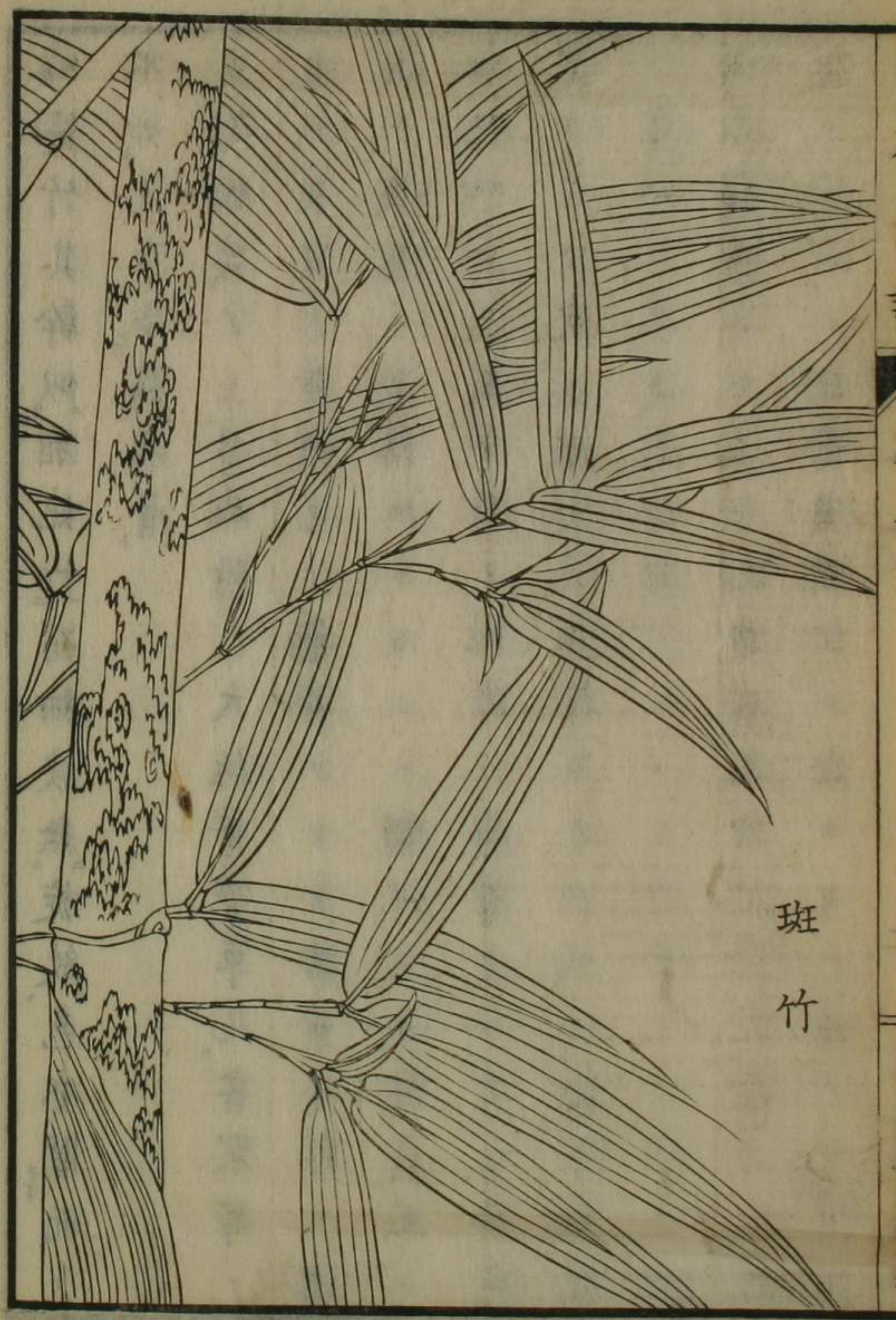
中嶋仰山畫



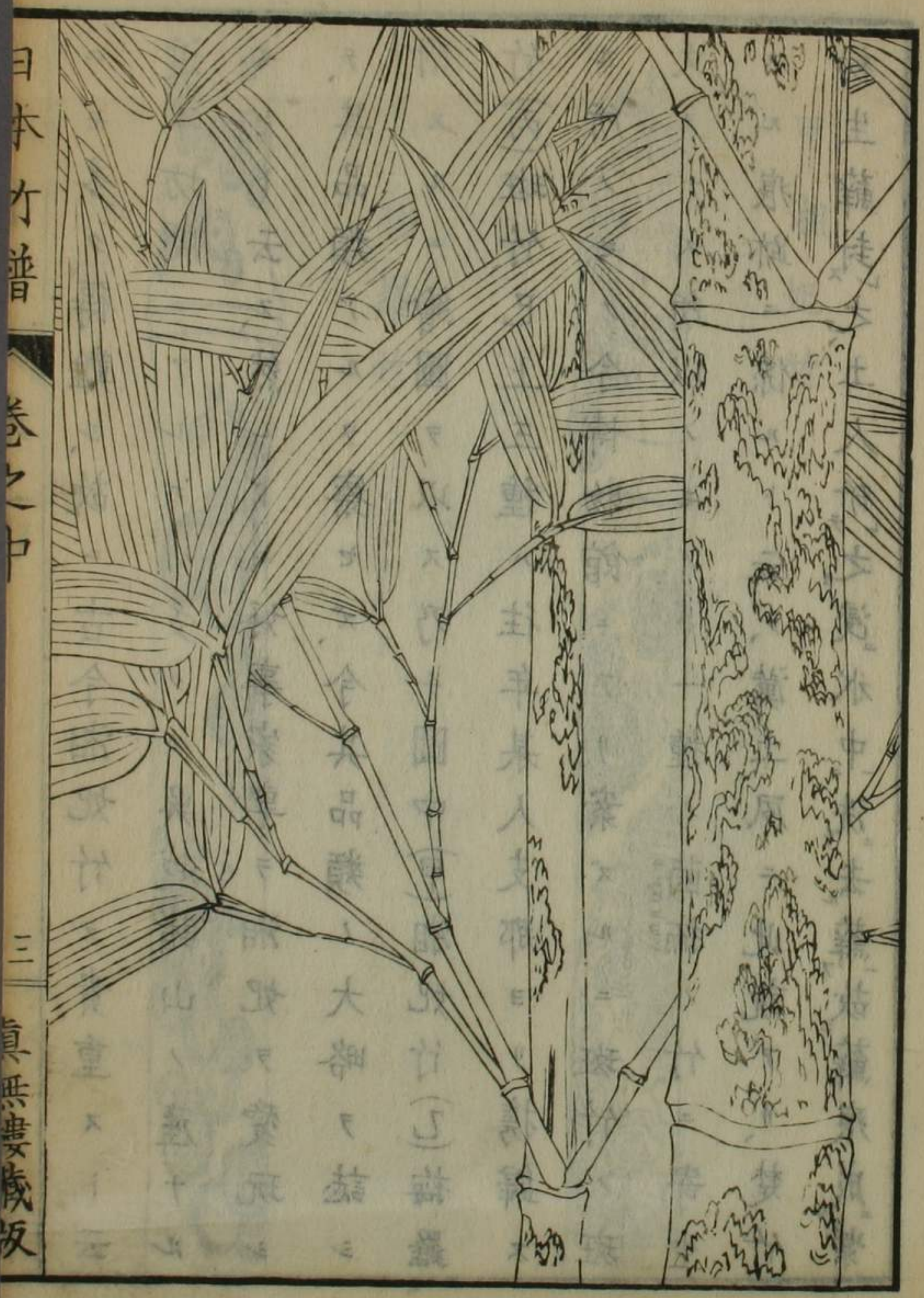
日本竹譜 卷之四

産ス、漢土ニハ湘妃竹ト云フモノヲ上品トス、大
 和本草ニ漳州府志ヲ引テ云ス、節間有斑文似湘
 妃淚痕所餘者是レナリ、信州戸隱山ニ生ズル方
 言幣軸竹及ビ羽後ノ飽海郡鳥海山ノ山腹凡三
 十餘町歩ノ間、美麗ナル斑竹多ク産ス是レハ篤
 竹ノ類ニシテ斑點アルモノナリ、北海道ニ産ス
 ル砂古丹竹ノ如キモ亦篤竹ノ同種ナリ、漢土殊
 ニ斑竹ヲ賞ス其品類左ニ抄ス
 湘妃竹産於古辣其幹光潤上有黃黑斑點紋旋轉
 而細如淚痕狀竹之貴重者

梅羅竹其幹似湘妃竹而細波無旋紋色亦闇而大
 不如人多取爲扇骨
 支那舶載ノ上等斑竹ハ大抵筆管、卓几、書架等ヲ
 造ル其皮上黃褐色ノ疊暈アリテ其暈亦外ニ瀋
 出シ、淚痕ノ浸滲セルモノニ類似ス、是即真正ノ
 湘妃竹ナリ、又下等ノ斑竹ハ疊暈アレドモ其色
 黒クシテ皮上斑文大小等シカラズ、一面ニ細紋
 ヲ密布セリ、是即梅羅竹ニシテ湘妃ニアラズ、斑
 竹品類極ノテ多シ、福建、廣西、浙江等所産アリト
 云フ湘妃ハ湖南省浙江ニ出ルモノ真ナリ、漢土



斑竹

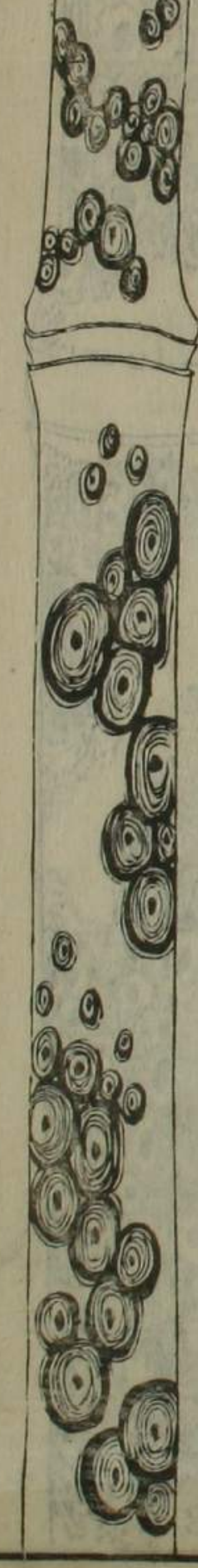


ニモ多ク得難シ、故ニ古今湘妃竹ヲ貴重スト云
 近年坊間ニアルモノ多クハ吳越諸山ノ産ナル
 ベシト云フ、然レドモ好事家專ラ湘妃ヲ愛玩シ
 テ、其品類アルヲ察セズ、今其品類ノ大略ヲ誌シ
 附スルニ繪圖ヲ以ス乃チ圖中(甲)湘妃竹(乙)梅羅
 竹(丙)斑竹、已上三種ハ往年某人支那ヨリ携歸ス
 ル所ノモノ今博物館ニアリ案ズルニ斑竹ノ斑
 文ヲナス所以ノモノハ一種ノ菌^{ナシニヨシ}柄ノ竹ニ寄生
 スル痕跡ニ係ルト云フ、漢土夙ニ此說アリ、楚竹
 初生蘚封之、土人所之、浸水中洗去蘚、故蘚痕成紫

甲 湘妃竹



乙 梅羅竹



乙 大梅羅竹



丙 斑竹



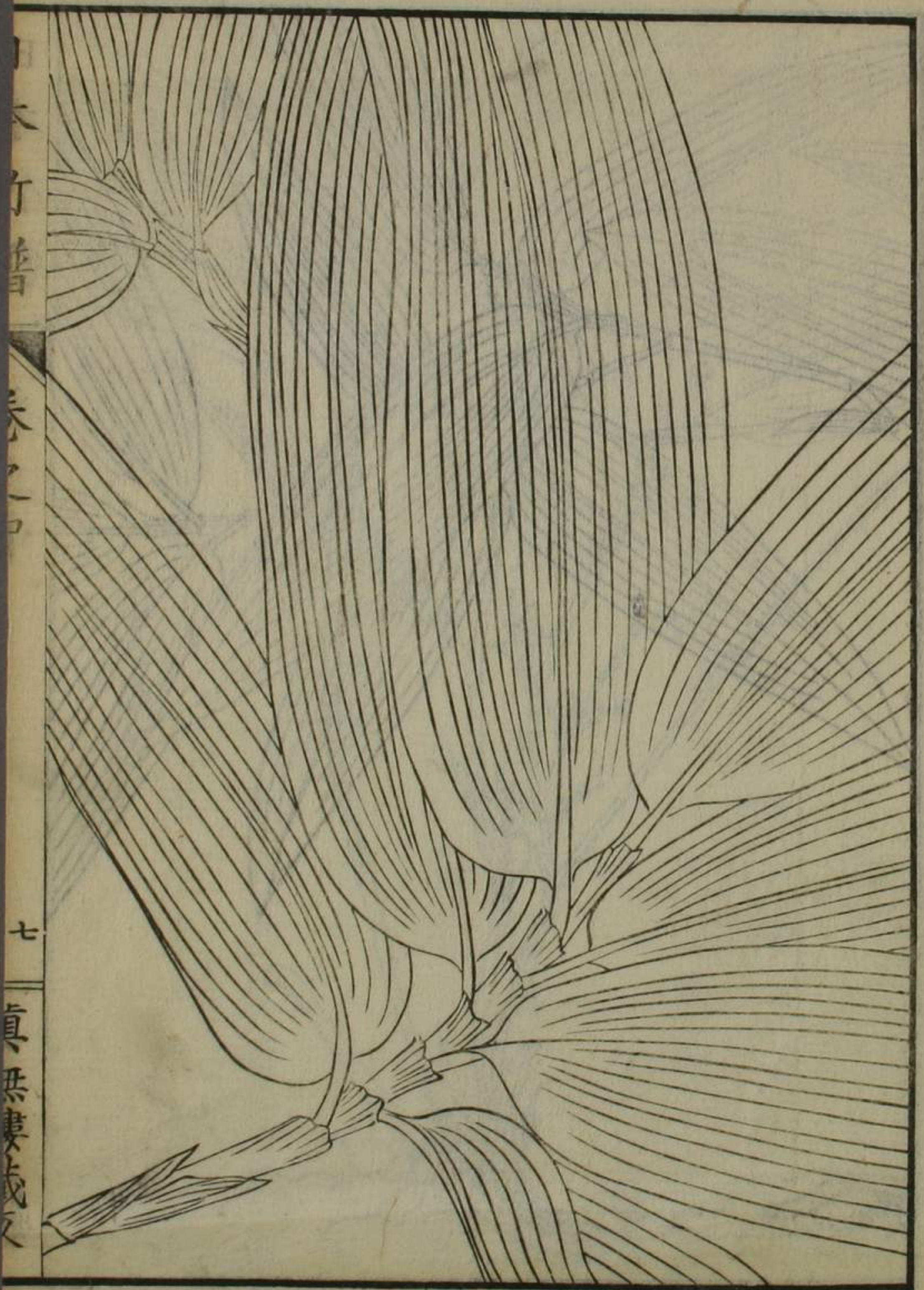
曇耳又明主凰州斑竹ノ詩云幾點苔痕上翠筍千
 秋常見淚痕新ト蓋シ蘚ト謂ヒ苔ト謂フ皆菌柄
 ノ類ナリ今斑竹ノ斑紋上白黴ヲ被リ菌柄ノ寄
 生セシ痕跡ヲ見ルアリ故ニ斑竹ハ產地ノ風土
 氣候ニ依テ一種黴様ノ菌ヲ皮上ニ生ジ斑文ヲ
 殘スモノニシテ一林ニ簇生スル竹ト雖モ悉ク
 然ルニアラズ現ニ肥後ノ人吉ヨリ山奥五家ノ
 庄ト云フ所ハ斑竹ノ自生スル所ナルガ滿林ノ
 竹皆然ルニアラズ竹林中ニテ斑文アルモノヲ
 撰テ伐リ出スト云ヘリ日向ノ飫肥薩摩ノ霧島

山及ビ佐土原等ニ産スル斑竹ハ、支那産ノ湘妃竹ト稍異ナリト雖モ、斑文鮮明ニシテ、品質最良殊ニ愛玩スベキモノトス

くまざり、又むまざり、

又やきをざり、又へりとりぎ、ちまさざり、漢名箬竹、箭竹、山白竹、俗銀邊竹ト書ス、其幹細ク、節低ク、高キモノハ六七尺、大抵三四尺、枝ハ一幹四五枚、又枝ナキモノアリ、其葉長キモノハ八寸、闊サ二寸許、新葉ハ青綠色、老葉ハ周邊九二三分白色ニ變ズ故ニ銀邊竹ノ名アリ

リ、最下ノ葉ハ常ニ小ニシテ、其餘四五葉ハ闊大ナリ、和漢三才圖繪ニ云フ、馬篠、葉大一枝六七葉其大者尺許、廣二寸、至秋出縦文、點黃白色、甚美、此竹、丘陵及ビ崖地等、陰濕ノ地ニ蕃茂ス、平地及ビ乾燥ノ地ニ適セズ、故ニ山腹、河邊等樹蔭アル地ニ簇生ス、此箬葉ハ鮓店及ビ料理店等ニテ裝飾用ニ供スル最モ多シ、又軟花餅、玲瓏餅、及牛皮糖、餡類ヲ包ムニ用ユ、該竹時トシテ實ヲ結ブ民生ヲ益スル頗ル大ナリ、又一種「コクマザ」ト稱スルモノアリ、幹ノ高サ

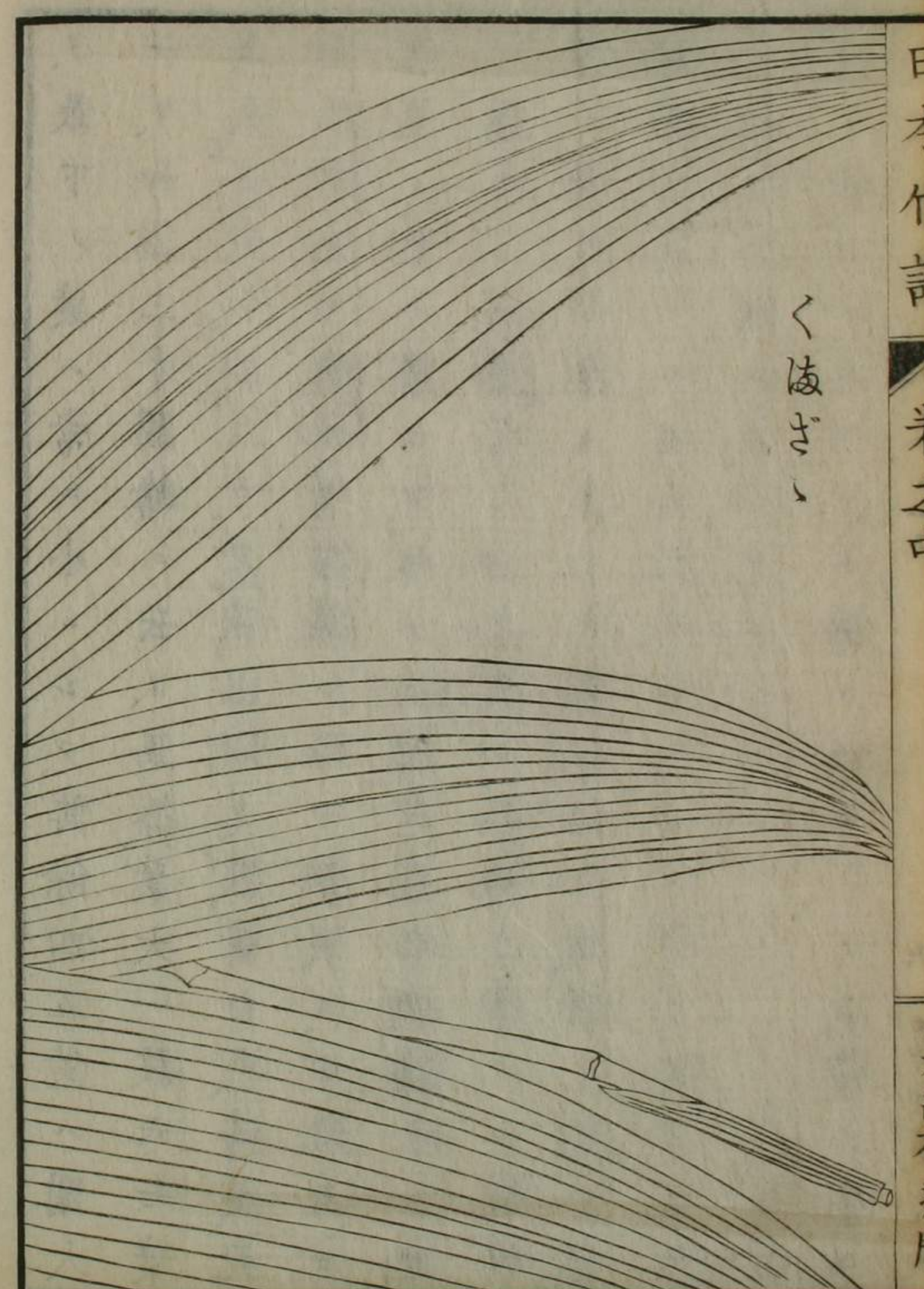


竹譜

卷之四

七

真兵衛

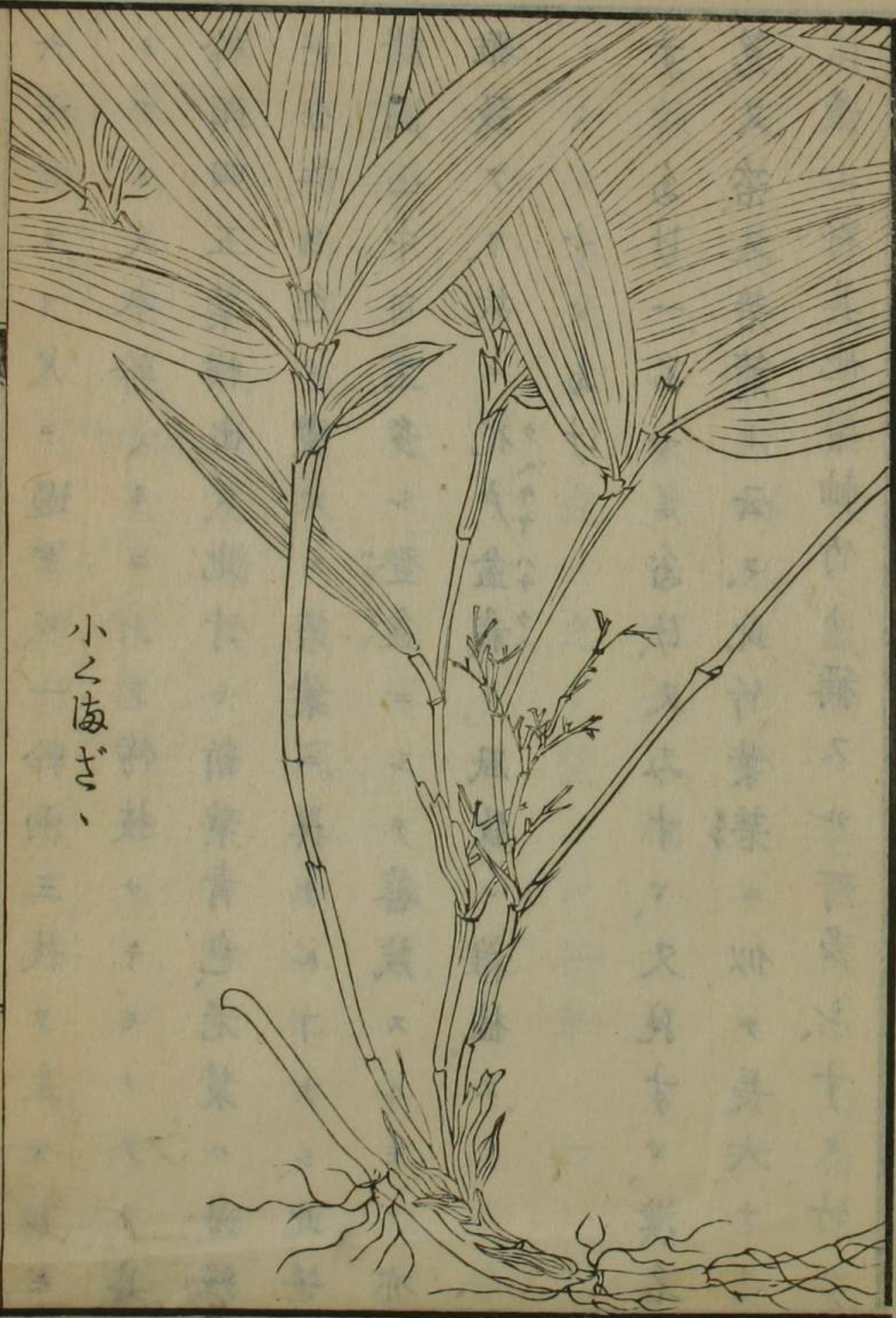


竹譜

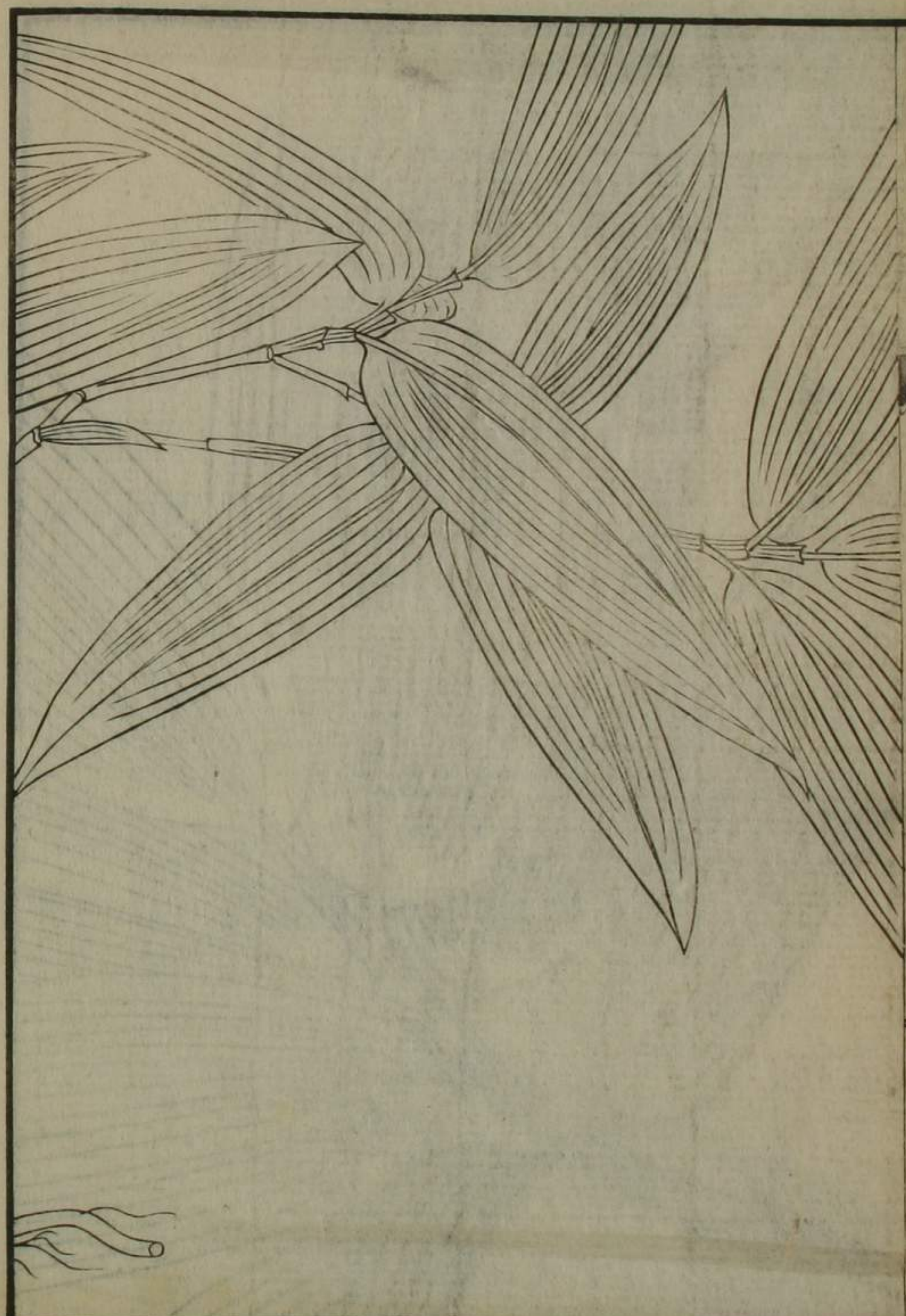
卷之四

くはざ

真兵衛



小之海ぎ

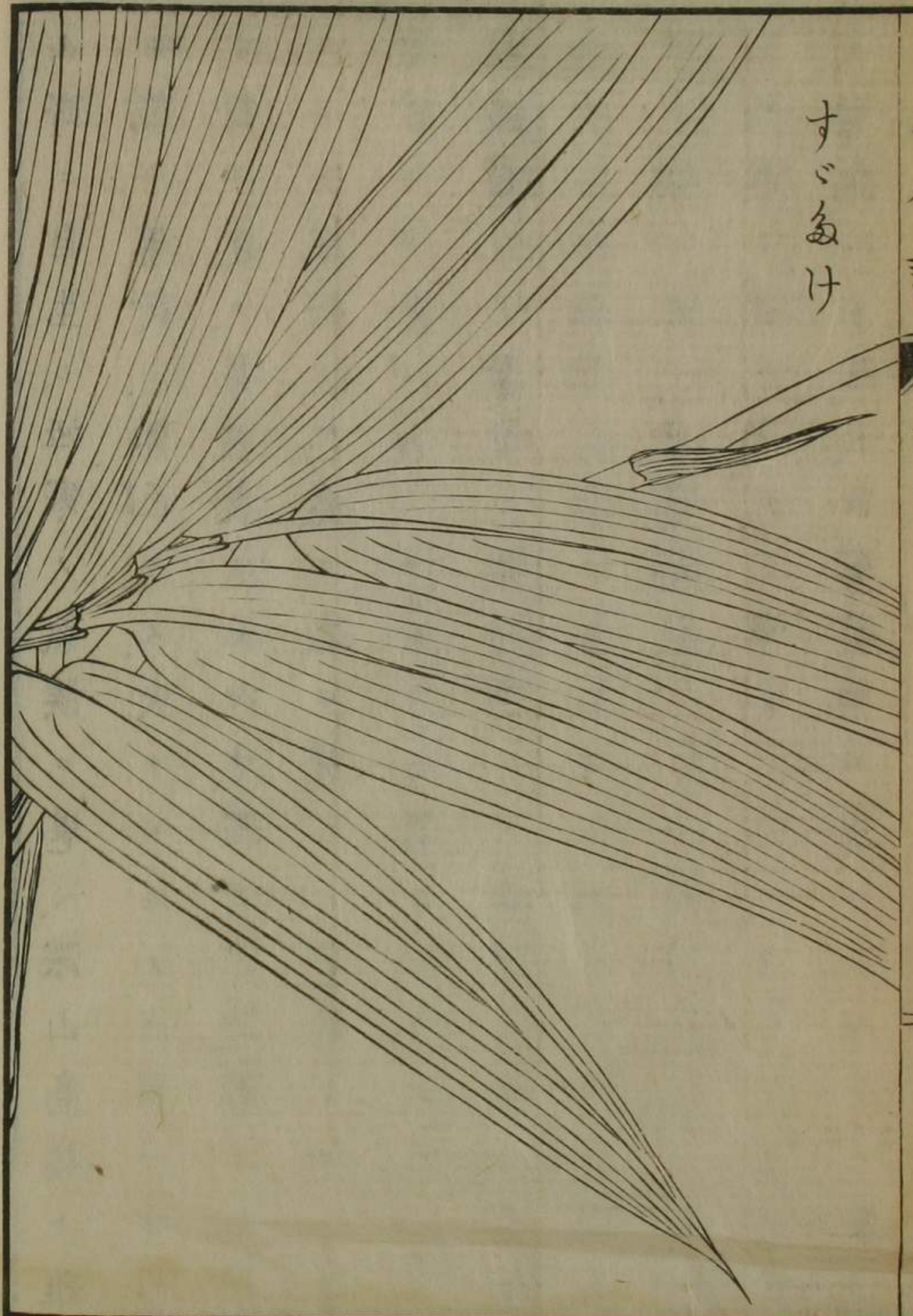
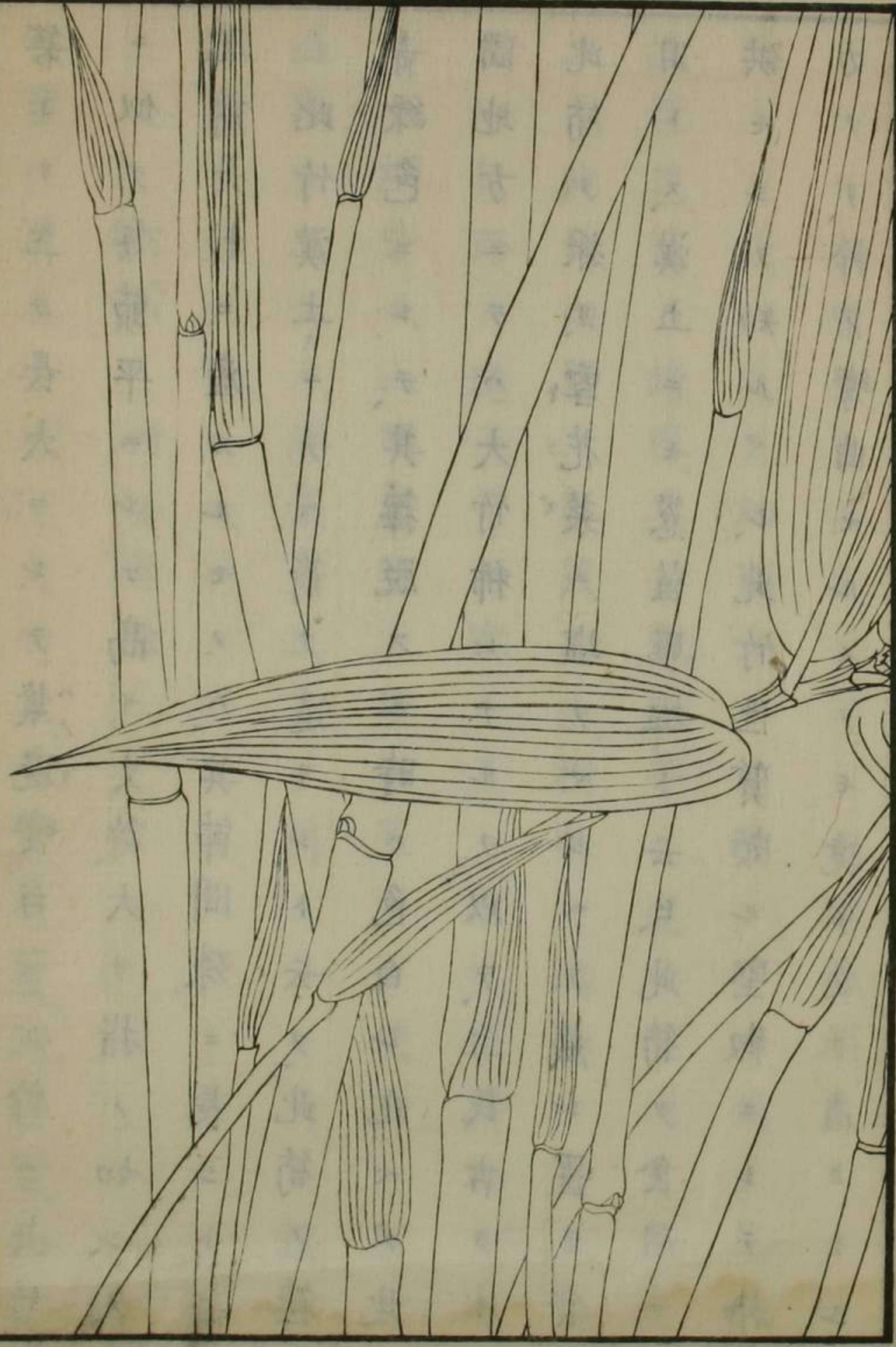


六七寸ヨリ尺ニ過ギズ、一幹兩三枝ヲ生ズルモ
ノアリ、又本幹ノミニシテ傍枝ナキモノアリ其
幹頭四五葉横出ス、此竹モ新葉青色、老葉ハ邊緣
一分許、白色ニ變ズル箬葉ニ異ナルヲナシ、此箬
諸國山中自生多シ登盆ニシテ蕃茂スルモノ亦
雅致アリ、故ニ花戸盆栽ノ風致ニ雜植ス

すゞ多け

すゞ多け一名やま多け、又みすゞ、又純すゞ、漢名
箬、又落、又箬箭ト云フ、此竹葉箬ニ似テ長大ナリ
信濃上野其他幣軸竹ト稱スル所多シ、すゞ竹ハ

山野ニ自生シ、沍寒ノ氣候ニ堪ヘ、深山高嶺ト雖
モ能ク蕃衍シ、節凸ラズ、大ナルモノハ周一寸長
丈餘ニ達ス、其葉長サ五六寸、潤サ寸許、箬ヨリ狭
クシテ末尖レリ、遠ク之ヲ望メバ芒草ノ如シ蓋
シ「ス」ダケハ「ス」、キタケノ畧ナランカ、此竹蕃
殖通蔓シテ數里ニ亘ル所アリ、信濃ノ木曾、諏訪、
陸中ノ南部、諸山、最モ多シ、深山幽谷、他竹ノ生ゼ
ザル地ニ生ジ、其葉闊大ニシテ其幹直立スト雖
モ、烈風ノ吹ク所、及ビ積雪ニ壓セララル、所ハ、地
ニ匍匐シテ生ズ、加賀越前ニ産スルモノハ其葉



すいふけ

日本竹譜
卷之四

真無棧成反

箬ヨリ至テ長大ニシテ葉邊變白セズ幹ハ矢竹
 = 似テ每節平ニシテ高サ丈許大サ指ノ如シ又
 肥前大村ニ産スルモノハ其節間殊ニ長シト云
 ノ此竹漢土ニテハ箭ヲ造リシト云フ此筍ノ籜
 青綠色ニシテ其籜脱スル時ハ色白シ凡ベテ北
 國地方ニテハ大竹稀ナルヲ以テ土民古ヨリ
 此筍ヲ採リ雪花菜ニ塩ヲマジヘテ藏シ置テ食
 用トス漢土ニモ葱菹雁塩ト云ヒ此筍ヲ食用ニ
 供セシヲ知ルベシ此竹性質頗ル堅韌ニシテ粘
 カアリ幹ノ彎曲セルモノモ撓テ之ヲ直カラシ

ムベシ木曾山中ニ生ズルモノ細幹端直ニシテ
 美ナリ故ニ之ヲ細割シテ扁條トナシ編テ花瓶
 提籃筐籠ノ諸器及ビ敷物等ヲ造ル信州ノ物産
 タリ此竹山野ニ蕃茂シテ樹林ノ生長ヲ妨ケ山
 民ノ行路ヲ遮ル等ノ害アリト雖モ亦斜地ノ崩
 土ヲ網紮シ山間農家ノ屋ヲ葺クニ使用シテ便
 益歎シトセズ又最モ民生ヲ利スルモノハ該竹
 實及ビ箬ノ實トス

竹實 附分拆表

竹實ハ漢名金琅玕又竹米練實籊籊琅玕實和名

子シコウト自然粳又「サ、メダリ」又竹麥ト號ス、
 箬ス、竹時アリテ花ヲ開キ實ヲ結ブ、竹實記ニ
 曰ク實ノ形、全ク小麥ニ似テ上下微ク銳レリ、其
 味小麥ニ似テ微ク瀟リ、竹ノ氣アルヲ異ナリト
 ナスノミ、土人之ヲ自然粳、或ハ竹麥ト號ク、炊テ
 飯トナシ、又細粉シテ團子、或ハ温飩ヲ製シテ食
 ス、殆ト麥ニ劣ラザル佳味アリト、漢人曰竹間時
 見開^レ花^ス、小白如^シ棗花、亦結^リ實^ヲ、如^シ小麥子、無^ク氣^味而瀟^シ
 浙江、人號^ス竹米、是^レ竹米ノ名アル所以ナリ、苦^ク竹^ノ
 淡^ク竹、含^ム朶^ヲ竹^モ老幹、吉林開花結實スルヲアリ、然

レドモ皆小粒ニシテ結實ノ量モ歎ク食用ニ供
 スベキノ收穫アルヲ聞カズ、獨リ「ス、竹」箬^ノ竹^ハ
 結實多量ニシテ從テ收穫モ大數アリ、天保三年
 ノ頃、飛彈國高山府ノ周^ハ邊^ハ方十里間、ス、竹皆花
 ヲ開キ實ヲ結ブ、老少相集テ之ヲ採收シ、日ニ五
 六斗合セテ二十五万石ヲ獲タリト云フ、其後天
 保八年ノ比、米穀不熟大凶歉アリシ時、人民竹實
 ヲ取テ食用ニ充テ飢餓ヲ免カレシト云フ、此竹
 實ハ信州伊那郡上下二郡近傍諸山ニ自生ノス
 ヲ竹、及ビ方言幣軸竹ニ多ク實ヲ結ビ其後竹幹

ハ悉ク枯レタリト云ス、今其實況ヲ聞クニ其實
 ヲ結ブニ當リ、人民争フテ山ニ入り、竹實ヲ採收
 シ、一日ニ取ル所ヲ擔ヒ出ス能ハザルノ量ニ至
 ル、之ヲ採ルニハ、笊ヲ胸下ニ懸テ、竹叢ニ入り、實
 ヲ結ブ穂ヲ集メ振落シテ次第ニ採リ集ルナリ、
 勉強者ハ五六俵ノ竹實ヲ貯蓄スルニ至ル、食法
 ハ粉トナシテ團子、摘込等ニ作り食スルニ蔵粉
 葛粉、松皮ノ粉等ノ如ク厭フナク數日間續テ食
 スルヲ得ベキ美味ナリト、以上田中芳男氏ノ筆記又竹實ヲ
 醸造シテ酒トナスベシ、其酒トナセシモノハ微

シク舌頭ヲ刺衝スルヲ覺ユルガ如クナレトモ
 其他毫モ尋常ノ酒ニ異ナルナシト云ヘリ、信州
 ノ人竹實ヲ以テ製造シタル篤麵ト號ルモノアリ、
 其製法、ス、竹ノ實ヲ採收シテ、水車ヲ以テ之
 ヲ舂キ以テ精白トナシ、又石臼ニテ挽キ粉トナ
 シ、篩ニカケ粉一斗ニ小麥二斗ヲ入レ、而シテ食
 塩一升ヲ水ニ溶シ塩汁トシ、能ク攪混練合シテ
 漸次引キ延バシ、細キ線トナシ函中ニ入レ温氣
 ヲ與ヘテ調製ス、味素麵ニ似テ淡泊ナリト云フ、
 近年甲州駒ヶ嶽ニ接近ノ山ニ從來蕃茂シタル

箬 = 實ヲ結ビタルヲアリ、信州ノ人來リテ該實
 ノ食スベキヲ教ユ、爾來各村該實ヲ採收スル凡
 ソ千五百俵入斗四一戸五六口ノ家、多キハ拾俵、少
 キモ五六俵ヲ採收シタリト云フ、凡一ヶ村百俵以上十四ヶ村
ルニ至竹實ノ有益ナルハ言ヲ俟タズ、駒場農學校
 化學教師「ドクトルオスカル、ケル子ル」氏ノ山
 梨縣産、箬竹一名「チマキザ」實子、分析表アリ、左
 = 録シテ該實ノ成分滋養 = 富メルヲ確知セシ
 ム、箬實子分析ノ結果 = 因テ見レバ其成分小麥
 及「トイ」 = 等シ、故ニ比較ヲ示サン爲表中「トイ」小

麥二種ノ成分ヲ掲グ○箬實「トイ」小麥ノ類トハ
 共 = 同一ノ實價ヲ有ス故 = 同一ノ需用 = 供ス
 ルモ可ナリ○既 = 箬實ノ有機體成分ハ「トイ」及
 ビ小麥 = 比スルニ殆ト同一ノ分析結果ヲ得タ
 ルヲ以テ、灰ノ成分 = 於ルモ亦殊別ナカルベシ
 ト信シタリシガ果シテ二三ノ元質ノ他ハ概子
 僅少ノ差異アルノミ○「トイ」及ビ小麥二種ノ成
 分ハ箬實 = 比スレバ多量ノ磷酸ト少許ノ硅石
 ヲ含有シ、ボッタ剝多アス亞斯、石灰、麻屈グ涅子矢亞（其他曹達、硫
 酸、塩素）ハ比率上殆ト同一ノ成分ヲ存在セリ、

山梨縣產箬實子分拆表

箬實子及ビライ小麥ノ成分		箬實子及ビライ小麥灰ノ成分	
成分	百分率	成分	百分率
水	一一、九八	水	三三、七二
蛋白質	一〇、七五	蛋白質	一、二二
油	一、五三	油	一、二〇
纖維	三、二五	纖維	一、二〇
水化炭素	七、四一	水化炭素	一、二二
灰	一、〇四	灰	三、二五
合計	一〇〇、〇〇	合計	一〇〇、〇〇
水化炭素中ノ澱粉 砂糖及デキストリン	六三、〇八	水化炭素中ノ澱粉 砂糖及デキストリン	六三、〇八
蛋白質中ノ 窒素ノ全量	一七、二〇	蛋白質中ノ 窒素ノ全量	一七、二〇
蛋白質外ノ窒素	二、八三	蛋白質外ノ窒素	二、八三
剥多亞斯	三、四七	剥多亞斯	三、四七
曹達	四、六六	曹達	四、六六
麻屈涅矢亞	一、二八	麻屈涅矢亞	一、二八
石灰	一、〇三	石灰	一、〇三
酸化鐵	〇、九六	酸化鐵	〇、九六
磷酸	二、九七	磷酸	二、九七
硫酸	二、九九	硫酸	二、九九
硅土	一、〇七	硅土	一、〇七
塩素	一、五五	塩素	一、五五

ぶんごぎ

ぶんごぎ、俗ニ豊後篠、一名「ヲカメザ」又「イヨ
 ギ」トウバザ、撰州有馬ニテ「イナノ、サ」ト
 云フ是レナリ、和漢三才圖會ニ此篠、每節五葉ヲ
 生ズ、故ニ五枚篠ト名ク、地錦鈔ニ此竹モト豊後
 國ヨリ來ル故ニ名ク、桂園竹譜ニ「ヲカメザ」ハ
 近時歲暮處々ノ市ニ、福女ノ面ヲ此篠ニ結テ販
 賣ス、依テ此名アリト、此竹高サ一尺八九寸ヨリ
 三尺餘ニ至ル、幹細小ナレドモ節凸クシテ葉モ
 大抵苦竹ニ似テ薄シ、其幹每節葉ノ附ク所ハ扁



十六

真無虞藏版



五ノリノ

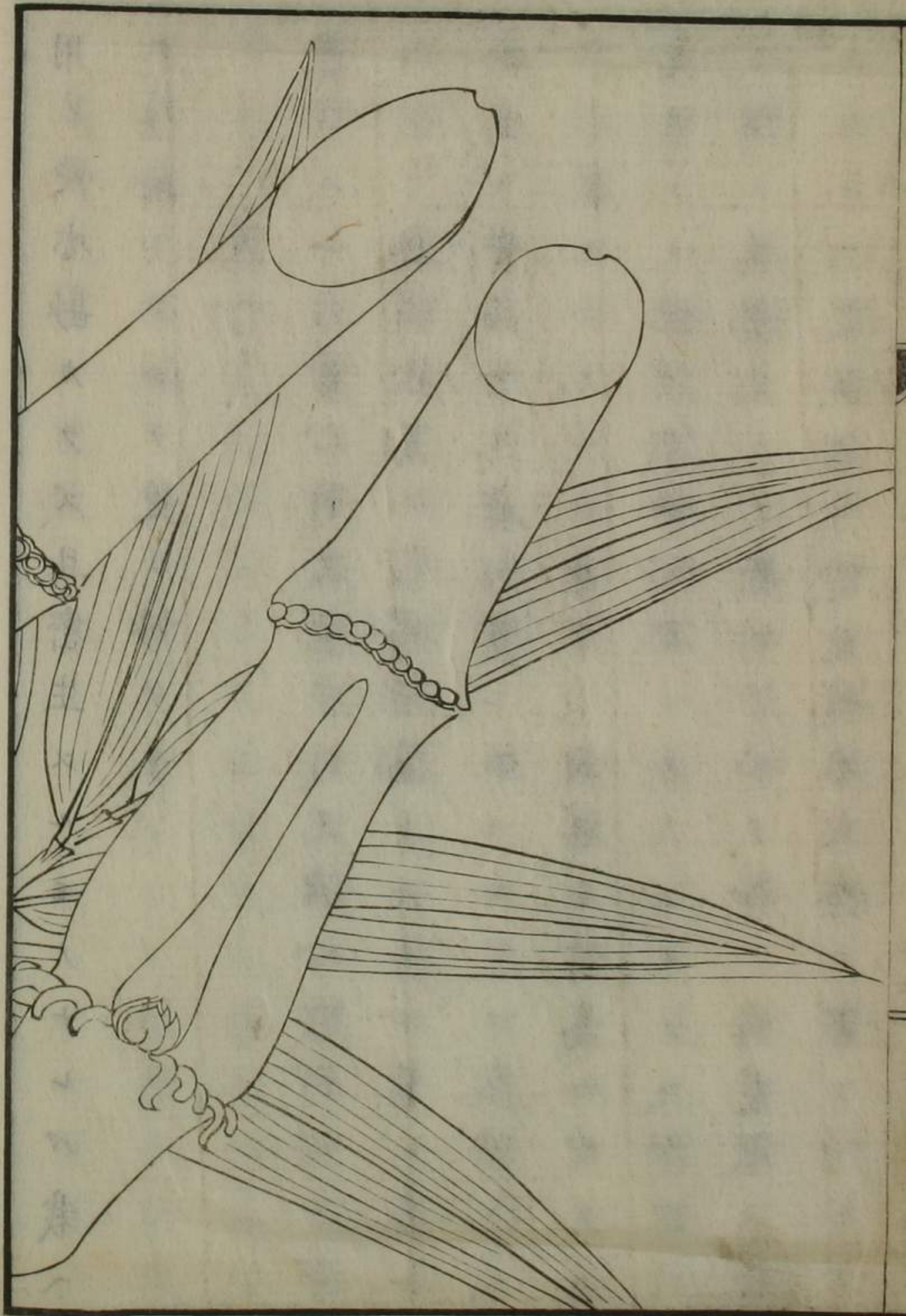
真無虞藏版

ニシテ一溝アリ、中ニ一線高ク起リ、葉ノ附セザル所ハ正圓ニシテ頗ル苦竹ノ小ナルモノ、状ニ似タリ、此竹壤土ニ生ズルモノハ能ク蕃茂ス、故ニ植上多キ乾濕適宜ノ地ニ生ズルモノハ、幹長大ニシテ密生ス、硲确ノ地ニハ生ゼズ、該竹ノ用夥シ、筴籠及ビ烟草盆ノ類、及ビ箸トナス、其他玩具トス、和漢三才圖會ニ、五枚篠ハ高サ尺餘、葉深青似篠竹、葉而短、每莖五葉叢生、能繁茂、植庭園玩之、此竹移植スル最モ容易ナリ、人家園隅庭隙ニ栽ヘテ、常ニ風致ヲ添ルノミニアラズ、且暮使

用ノ便亦尠カラズ、且密生スルモノナレバ栽ヘテ藩籬トナシテ更ニ妙ナリ

實竹

實竹ハ、一名實心竹、又實中竹、又滿心竹、阿州一字山及ビ奥州松島ノ内福浦島ト云ヘル島ニ産シ、松島ニ賣品アリ、真ニ實シタルモノハ高價ニシテ小孔アルモノハ廉ナリ、朝鮮ノ竹島ハ有名ノ産地タリ、信州下伊那郡ニ産スルモノハ、印材竹ト稱ス、枝葉凡ソ人面竹ノ如ク、幹ノ溝渠深ク、長キモノニ丈許、徑寸餘、此竹本末悉ク實スルニア



實竹

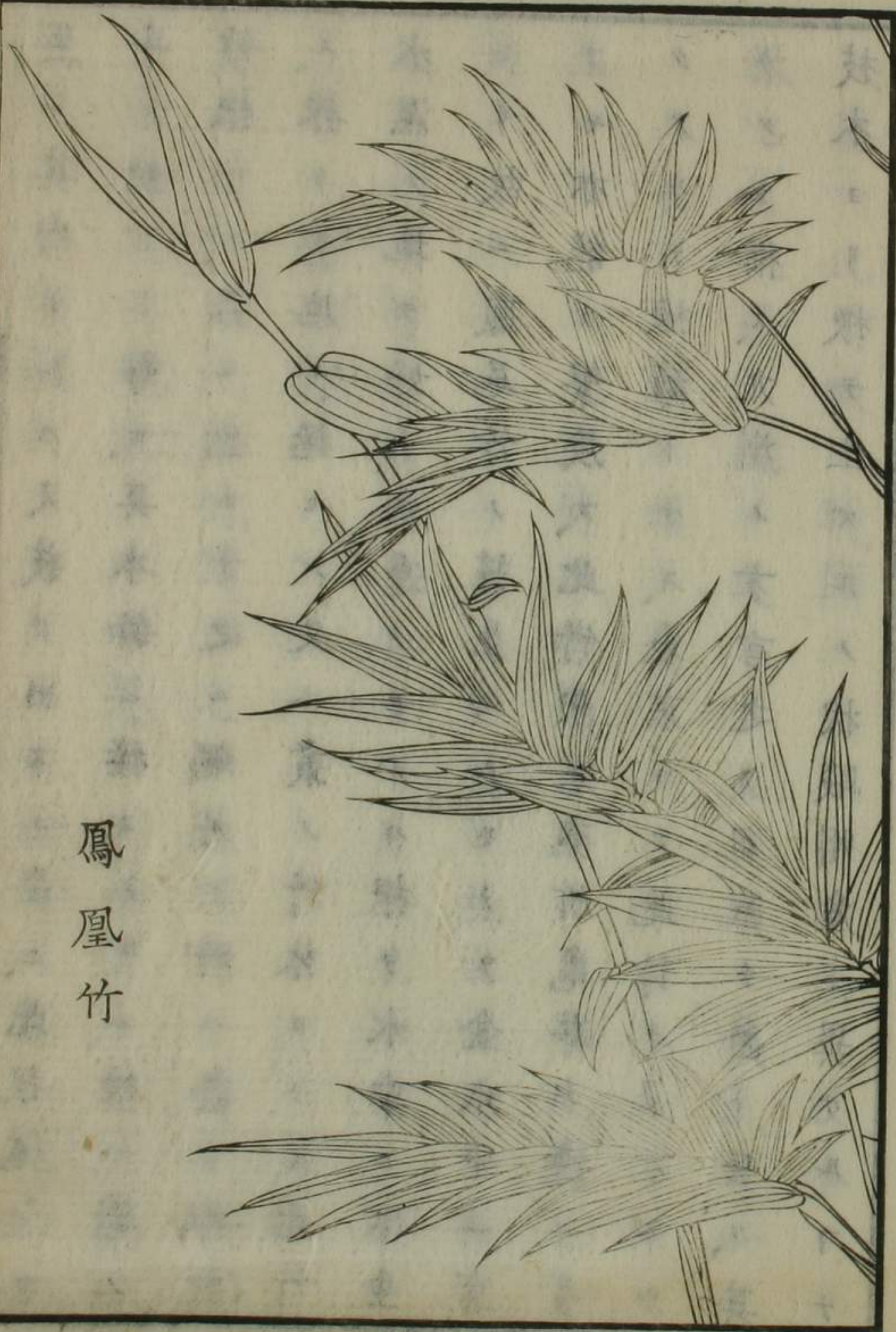
ラズ、根モト抵一近キ所最モ實シテ、梢ニ至レバ針大
ノ如キ小孔アリ、苦竹淡竹ノ瘠地ニ生ズルモノ
往々根ヨリ一二節間、實シテ孔ナキモノアリ、殊
ニ鞭根ニハ實シテ孔ナキモノアリ、松島ヨリ實
竹ヲ購求シ來リシ人ノ説ヲ聞クニ、該地實竹ノ
生ズル篁アリ、行テ之ヲ伐リ採ルニ滿林ノ竹悉
ク心ナキニアラス、最モ他ノ竹ヨリ肉充實シテ
心孔細キモノ多シ、數竿ヲ伐テ全ク心孔ナキ實
竹ヲ獲ルト云フ、苦竹淡竹ノ瘠地ニ生ズルモノ
實心ノ状アルヲ以テ考ルニ、竹肉充實スル一種

ノ實竹アリト雖エ、竹ノ性、固ヨリ虚心直立ヲ本
性トス、故ニ實竹モ亦小孔アルハ天然ノ本性ナ
ラン、此竹ハ印材トナシ、又節トナシ、細キモノハ
鞭トナス、漢土ニハ肥大ノ實竹アリト云フ、若シ
實竹ニシテ巨竹ノ竹林蕃殖セバ世ノ需用モ亦
多カラシ
信濃國、下伊那郡且開村ニ宮下相次郎ト云フ者
アリ、實竹ヲ栽ヘテ毎年一回イラド麥ムギ稈カサ馬糞等ヲ施シ
テ肥料トナシ、印材竹ト稱シ培養スル者アリ、未
ダ販額多キニ至ラズ

ほうらいちく

ほうらいちくハ、漢名鳳尾竹、土佐ニテ之ヲ土用竹、又コユンヤウ竹ト云フ、播州ニテ之ヲ「サンシヤウダケ、薩州コギンチク」ト稱ス、此竹大小アリ、大ナルモノハ羽扇竹トモ云ス、駿州ニ栽ル多シ用ヒテ植籬トナス、其葉手指ヲ開ク如ク併列シテ羽扇ノ如シ、故ニ此名アリ、此竹ノ短小ナルモノモ亦鳳凰竹ト號ス、即變生ナリ、人家登盆シテ玩賞ス、葉ハ短クシテ形狀、樞ノ葉ノ附クニ似タリ、此短小ナルモノ庭際ニ植ヘ五六尺以上高サ

三間許ニ至リ、毎節ノ間九二尺許アリ、其竹質纖細ニシテ最モ柔軟ナリ、打碎テ絲狀トナシ、火繩ニ製スレバ至テ上品ナリ、此竹幹ノ内部極メテ細クシテ管ノ如ク、内ニ燈心ノ如キ絲アリテ竹紙ナシ、因テ通心竹トモ云フ、補理ヲ怠ル植籬ニハ、節上枝本ヨリ竹根ヲ下垂シ、彎曲シテ上ニ向ヒ、鉤狀ヲナシ、其上端ハ伸テ竹竿トナリ、又根ヨリ根ヲ分チ次第ニ層リ生ジテ一顆ノ根塊ヲナシ、下部ニハ差鬚根ヲ生スレドモ、地ニ遠ケレバ一二寸ニシテ止ム、根塊上ニハ許多ノ竹竿ヲ叢



鳳凰竹

二十一

真毋婁歲及



真無樹麓版

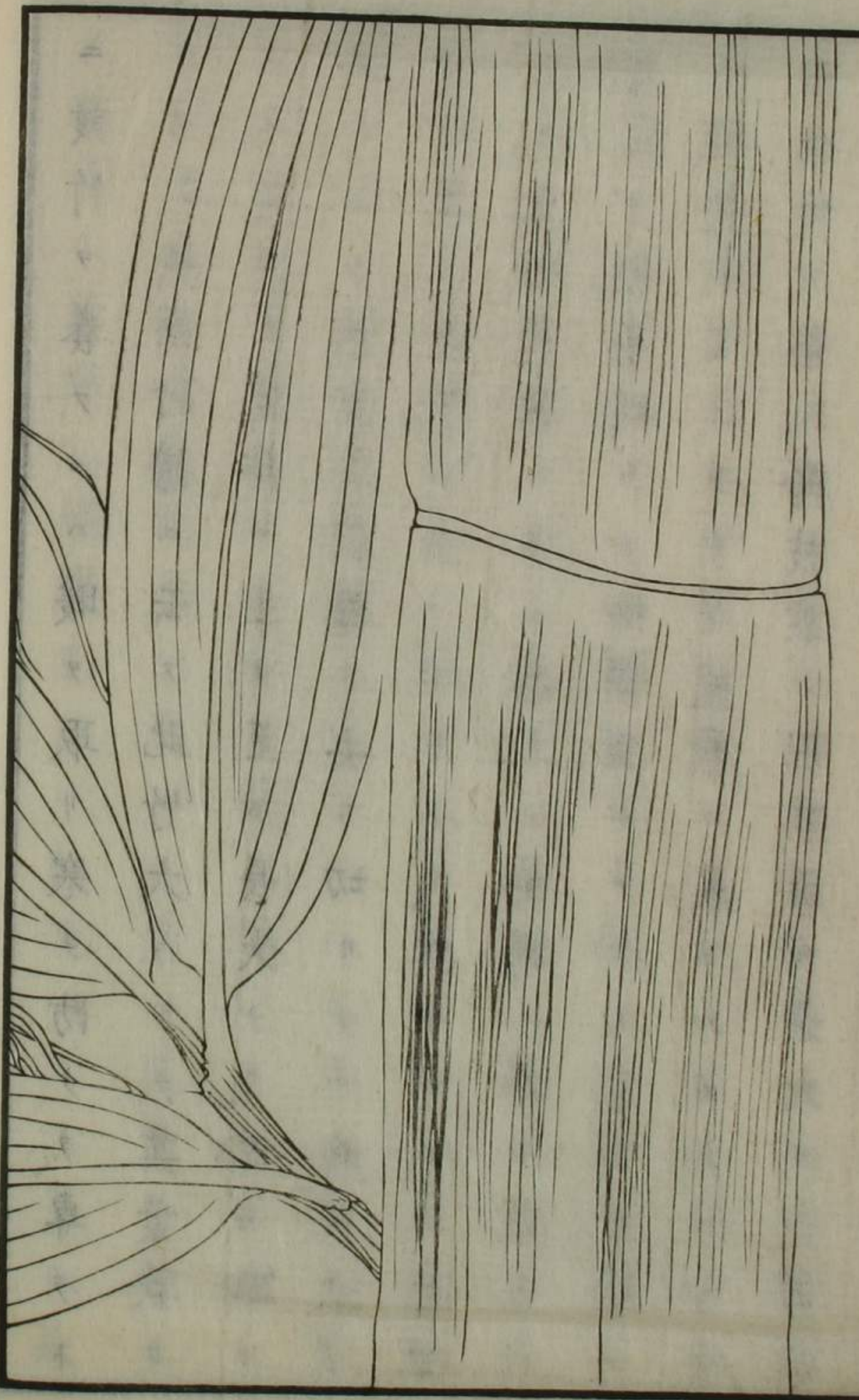
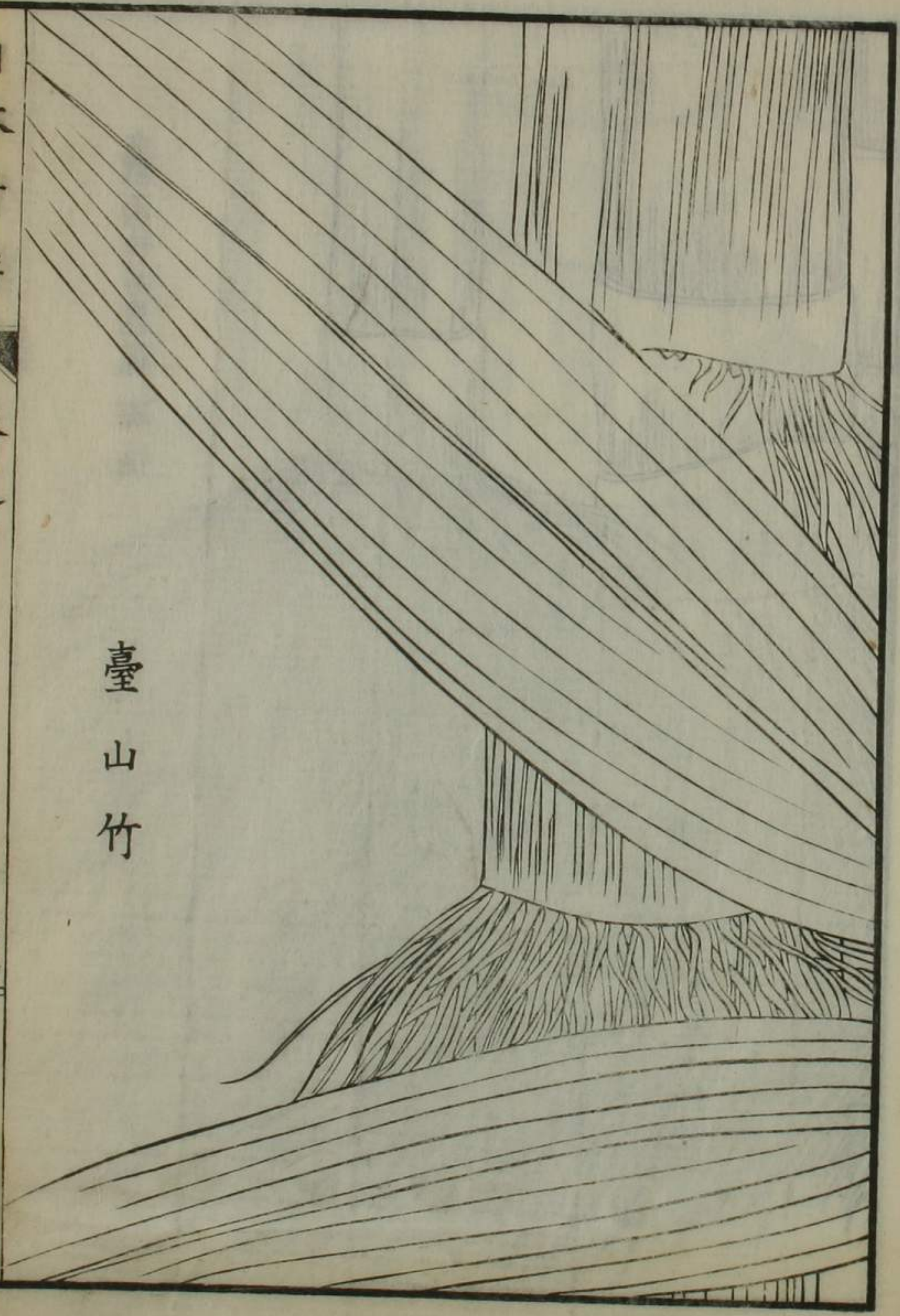
生シ其内ナルハ又枝ヲ出スニ至ル此根塊大サ
斗ノ如シト雖モ其本幹ニ接スル所ハ唯一線ノ
竹根ノミ、若シ劇シク之ニ觸ル、時ハ忽チ離脱
ス、採リテ地ニ播セバ又一叢ノ竹林ヲナス、此竹、
水濕ノ地ヲ好ミ、水邊ノモノハ根ヲ水中ニ下垂
ヒリ、故ニ鳳尾竹ノ簇生セルモノヲ盆水中ニ育
フモ亦能ク繁茂ス、此竹、東京本所亀井戸邊ニ多
クアリテ植籬トナス、東京ニテ此竹ヲ「タイボウ」
ナリト稱ス、九州ノ方言之ヲ「チシト」云フ、其
枝本ヨリ根ヲ生ズルノ状、駿州産ト異ナルヲナ

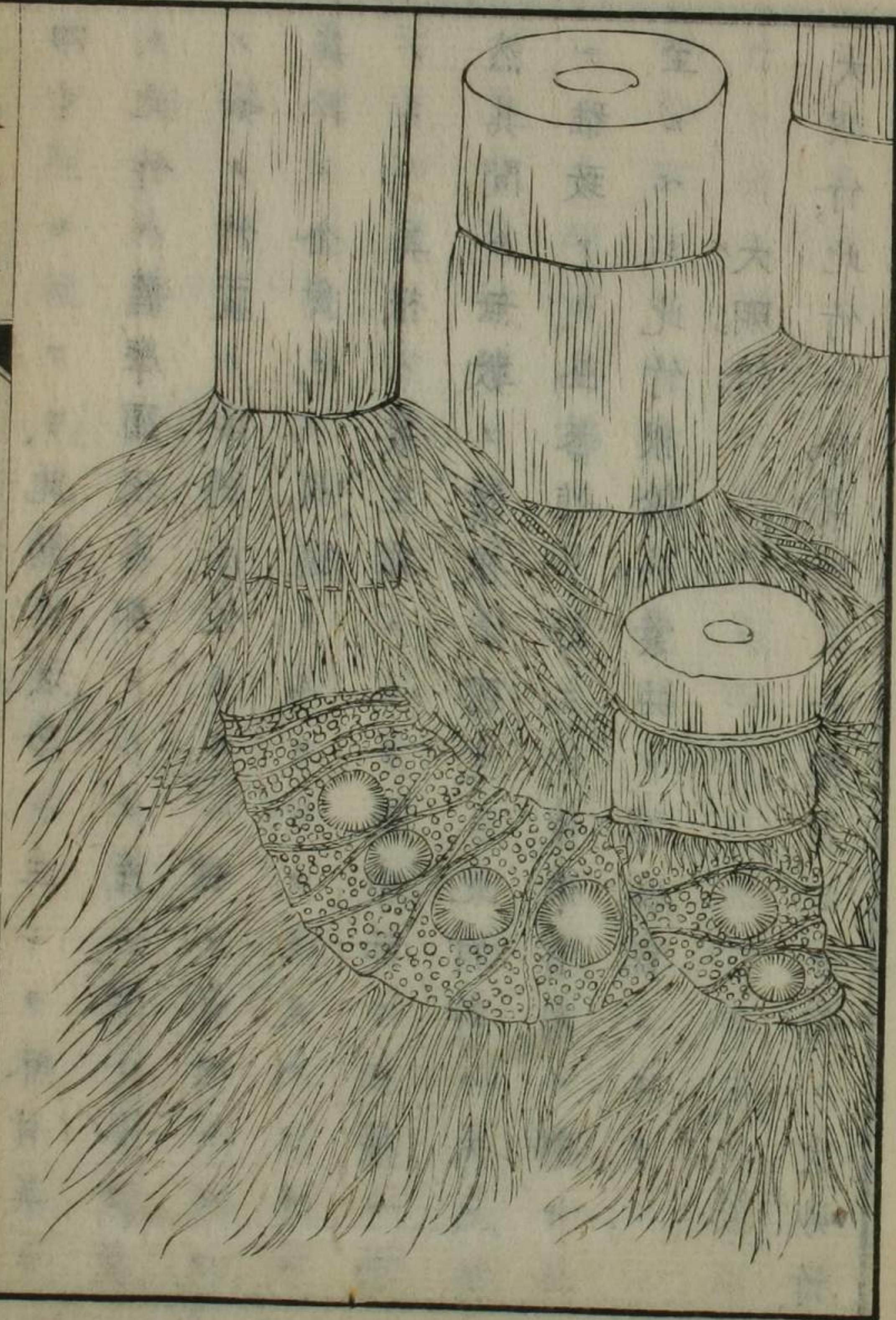
シ、蓋シ此竹嫩キ時、頭ヲ截リ、去ル、故ニ枝本ヨリ
根ヲ生ジ、遂ニ塊ヲ成スニ至ル、頭ヲ截ラザルモ
ノ且長シテ後ニ頭ヲ截ルモノハ板本ヨリ根ヲ
生ズルヲナシ、此竹四時筍ヲ生ズト雖モ、七月下
旬ヨリ八月ニ至リ土用中筍ヲ生ズル殊ニ夥シ、
故ニ土用竹ノ名アリ、九月十月ニ至リ葉ヲ開久
臺山竹タイザン
臺山竹一名大名竹、清俗之ヲ龍頭竹ト稱ス、今花
戸往々之ヲ登盆ハチウケンシテ培養スル者アリ、俗ニ泰山
竹ト云フ、葉闊大ニシテ二寸餘、幹ノ周六七寸每

枝疎ニシテ節低ク肉薄ク竿ノ形狀頗ル蘆ノ長
大ナルモノニ似タリ、往時此竹舶載シテ肥前長
崎ノ官園ニ栽ユ、今花戸盆ニ栽ヘ、又園ニ栽ヘテ
培養スルモノアリト雖モ、風土適セズ、培養到ラ
ザルヲ以テ未ダ林ヲ成スニ至ルヲ聞カズ、此竹
鞭根ナク、根株地上ニ露出シ、節根相接シ、纍然龍
頭ノ如シ、故ニ龍頭竹ノ名アリ、八九月ニ至リ筍
ヲ生ズ、直長聳立シテ勢力最モ熾ンナリ、然レド
モ秋風來リ冷氣到ルニ及デハ、忽チ成長ヲ止メ
テ、梢萎ニ、葉瘁ニ、保護怠レバ、枯死スルヲ多ク故

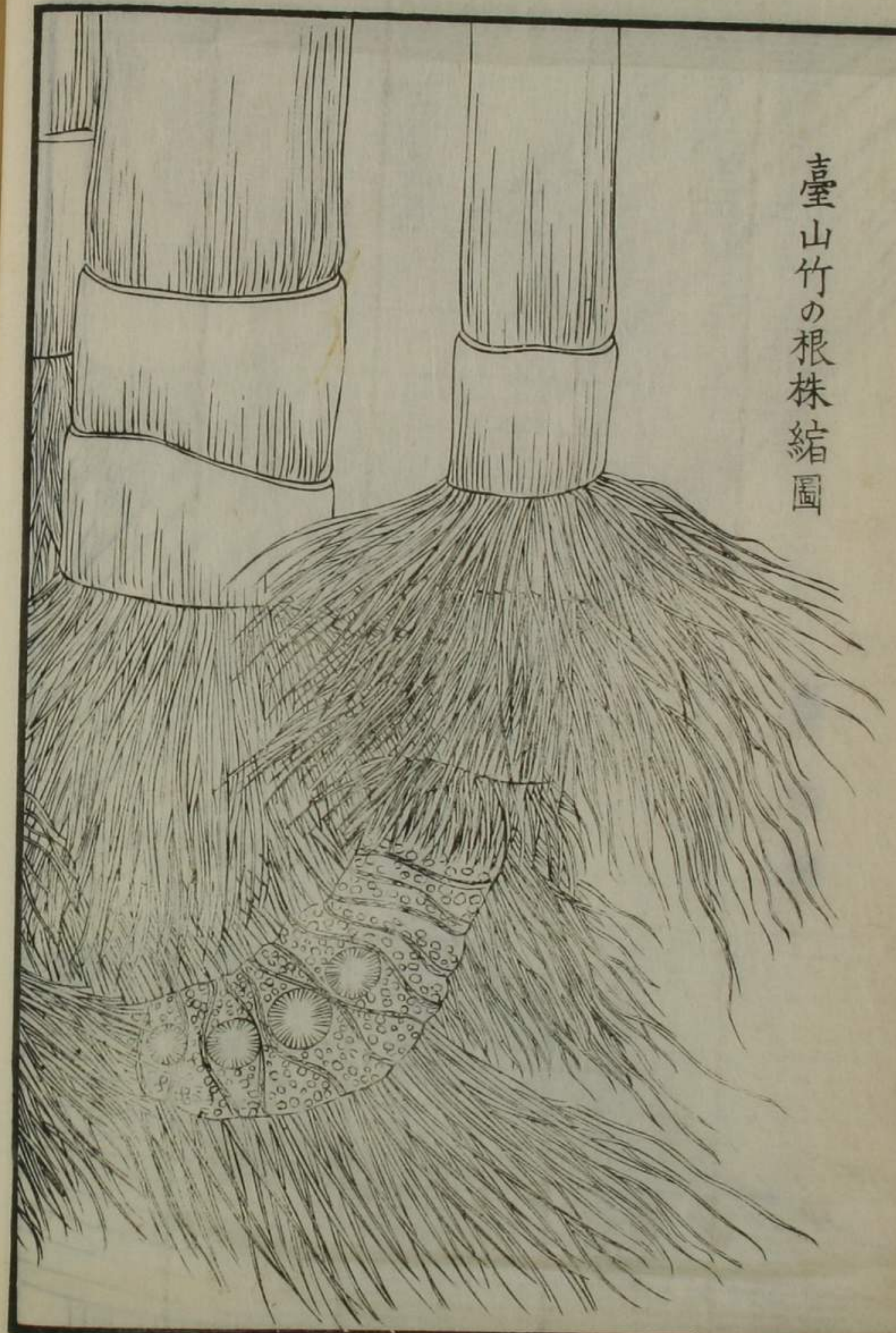
ニ該竹ヲ養フニハ暖ヲ取り寒ヲ防クヲ專ラト
スベシ、桂園竹譜ニ云フ此竹大ニシテ其葉軟カ
ニ八九月ノ比筍ヲ生ズ、至テ長大ナリ、然モ知ラ
カニシテ味宜シ但籜ヲ去リ切りテ一兩日水ニ
浸シ置キ、後煮テ食フベキナリ、然ラザレバ苦味
アリ、此竹薩摩ニ多シ、唐人ノ食料ニ持チ來ルハ
益大キ也、長崎ニテ御藥園ニアリ人家ニモ稀レ
ニ植置クモノアリト、薩摩ニ産スルモノハ方言
唐金竹ト稱ス、幹枝葉ノ形狀最モ長大ナリ、節凹
クシテ蘆ノ如ク、長二三丈、周八九寸ヨリ一尺三

臺山竹





臺山竹の根株縮圖

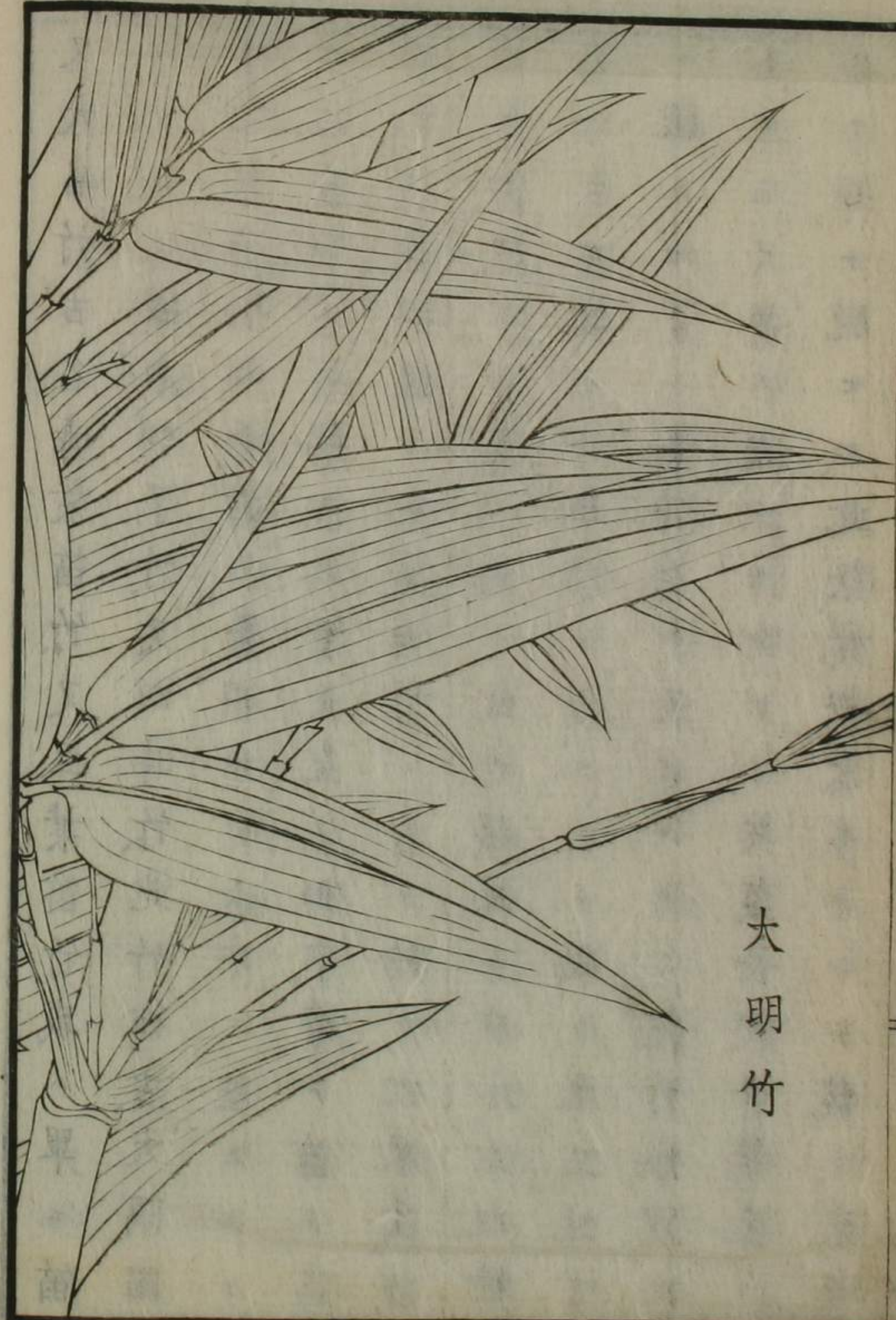
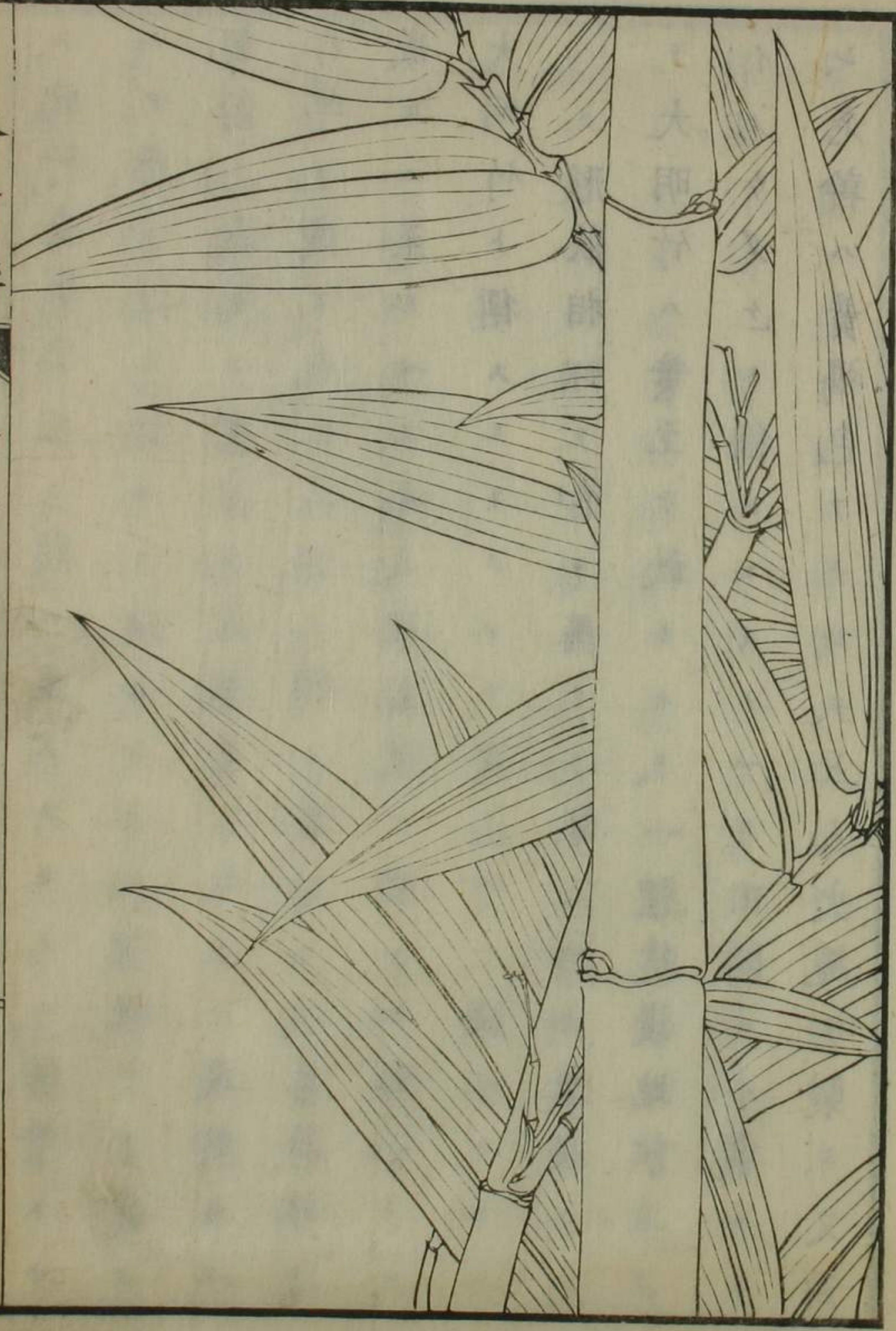


四寸ノモノアリ、此筍ハ夏季ニ生ジテ味甘美ナ
リ、此竹ハ薩摩國揖宿郡ニ多ク産シ、竹ノ如ク蘆
ノ如ク竹蘆ノ中間ニ位スル一種ノ奇竹ニシテ、
其幹ニ金黄色ノ縦道アルモノアリ、又ハナキモ
ノアリ、其根ハ叢生類ニシテ地中節々相接シ、
然其間ニ無數ノ鬚根ヲ密生ス、此竹幹ハ大ニシ
テ雅致アリ、益蕃殖ヲ計ラバ後來有用ノ夥キニ
至ルベシ、此竹根幹枝葉共ニ博物館ニアリ

大明竹

大明竹、此竹ハ含朶竹ノ一種ニシテ、俗ニ大妙竹、

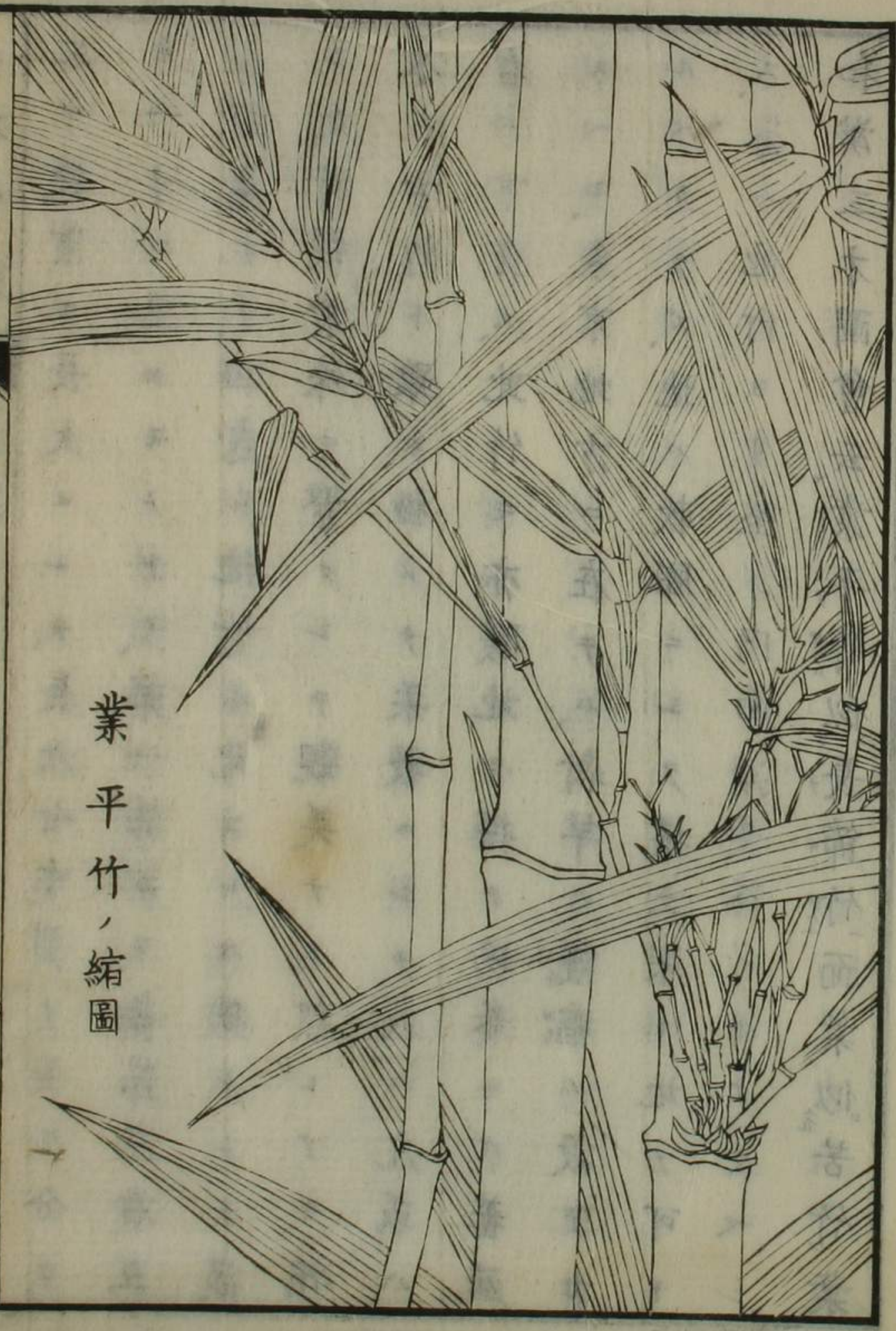
又大名竹、古名青葉笛竹、又二葉笛竹、或ハ單ニ笛
竹ト云フ、漢名四季竹、又四時竹、此竹往古、大隅國
贈於郡清水郷、青葉山臺明寺ノ山中ニ産スルヲ
以テ臺明竹ト稱ス、天智天皇ノ御宇、剪テ笛ト爲
ス、其音清妙、依テ青葉笛竹ノ名ヲ給フ以來爲ス、
竹貢御所ト古書ニ見ユ、此竹暖地ニ在テハ四時
筍ヲ生ズ、故ニ四季竹ノ名アリト雖モ東京地方
ニ植ルモノハ復時筍ヲ生ズルノミ、此竹節間相
去ルニ尺許ニ及ブモノアリ、其葉長狹青翠、籜ハ
年ヲ經テ脱セズ、此根鬚根尤多クシテ能ク直長



大明竹

ス、此竹、奇巖怪石ノ間ニ生ズルモノハ、笛管トナ
シテ聲音最モ遠キニ達スト云フ、鞭根アリ遠ク
匍匐シ、鞭筍ヲ露出ス、此鞭筍ヲ地上ニ提起セバ
亦竿ヲ成ス、此竹暖地ヲ撰テ栽培セバ、蕃蔚、林ヲ
成スニ至ルベシ、今人家盆玩ニ供スル短小ナル
大明竹ト稱スルモノアリ、寒山竹ノ矮小ナルモ
ノト形狀相似テ自ラ異ナリ、寒山竹ハ葉硬クシ
テ大明竹ハ葉至テ軟カナリ、一種筑後地方ニ
イメウダト稱スルモノアリ、田間ニ小叢ヲナ
シ、老幹ハ黄褐色ヲナシテ、土人火繩ヲ製シ、又油

搾ノ籠ヲ造ル形チ尋常ノ含朶竹ノ如シト
桂園竹譜ニ陽明竹、又たいも多け、廣東竹ト云フ
モノ、及ビ越後國、村松ニ産スル村松竹ヲ列載ス
未ダ其竹ヲ見ズト雖モ大明竹ノ同種異名ナル
ベシ
なりひた多け
なりひら多けハ、一名和合竹ト云フ、竹ノ形狀、苦
竹ト含朶竹トノ中間ニ在ルモノニシテ、葉ハ含
朶竹ニ似テ節ハ苦竹ニ似タリ、性直長ニシテ至
テ軟ナリ、高サ一丈四五尺、周リ二寸五六分ヨリ



業平竹ノ縮圖

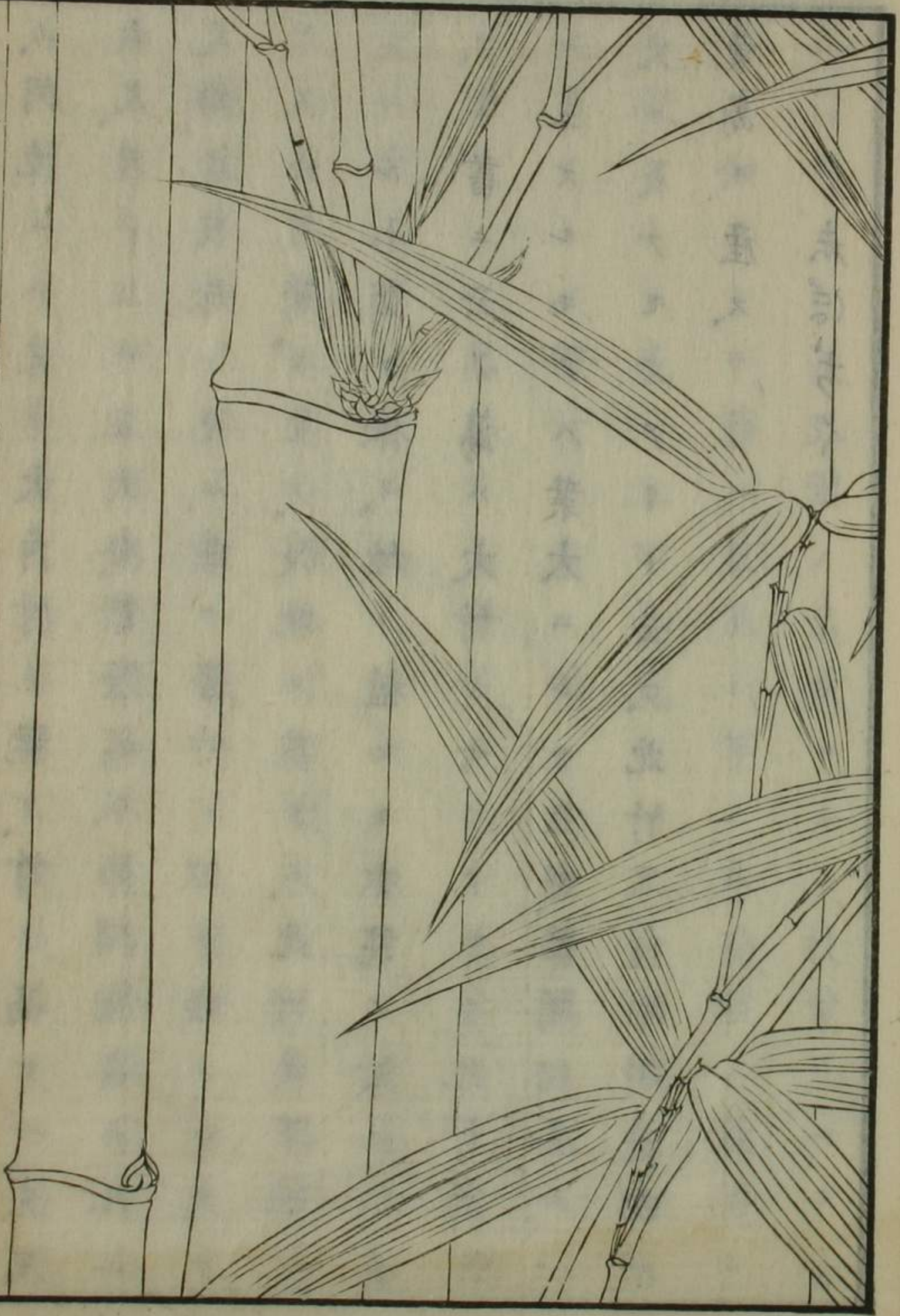


三寸許、葉モ長大ニシテ、長六七寸、開サ七八分ヨ
 リ一寸ニ至ルモノアリ、第一節ヨリ、每節左右互
 ニ凹處アリ、凹處ハ他竹ニ比スレバ狭クシテ淺
 シ、此竹枝葉殊ニ繁クシテ觀美ナリ、然レドモ梢
 末ハ古竹ト雖モ、極メテ柔軟ニシテ、或ハ左或ハ
 右ニ下垂ス、此竹モ亦暖地ヲ撰テ培養セバ蕃殖
 スベシ、東京地方ニ在テハ、新竿ハ護霜ノ設ナカ
 ルベカラズ、地ハ軟膨ニシテ壤土深キ地ヲ可ト
 ス、薄ハ他竹ヨリ堅ク内面滑美茶斗トナスベシ
 和漢三才圖會云、業平竹似長節竹而葉似苦竹、業

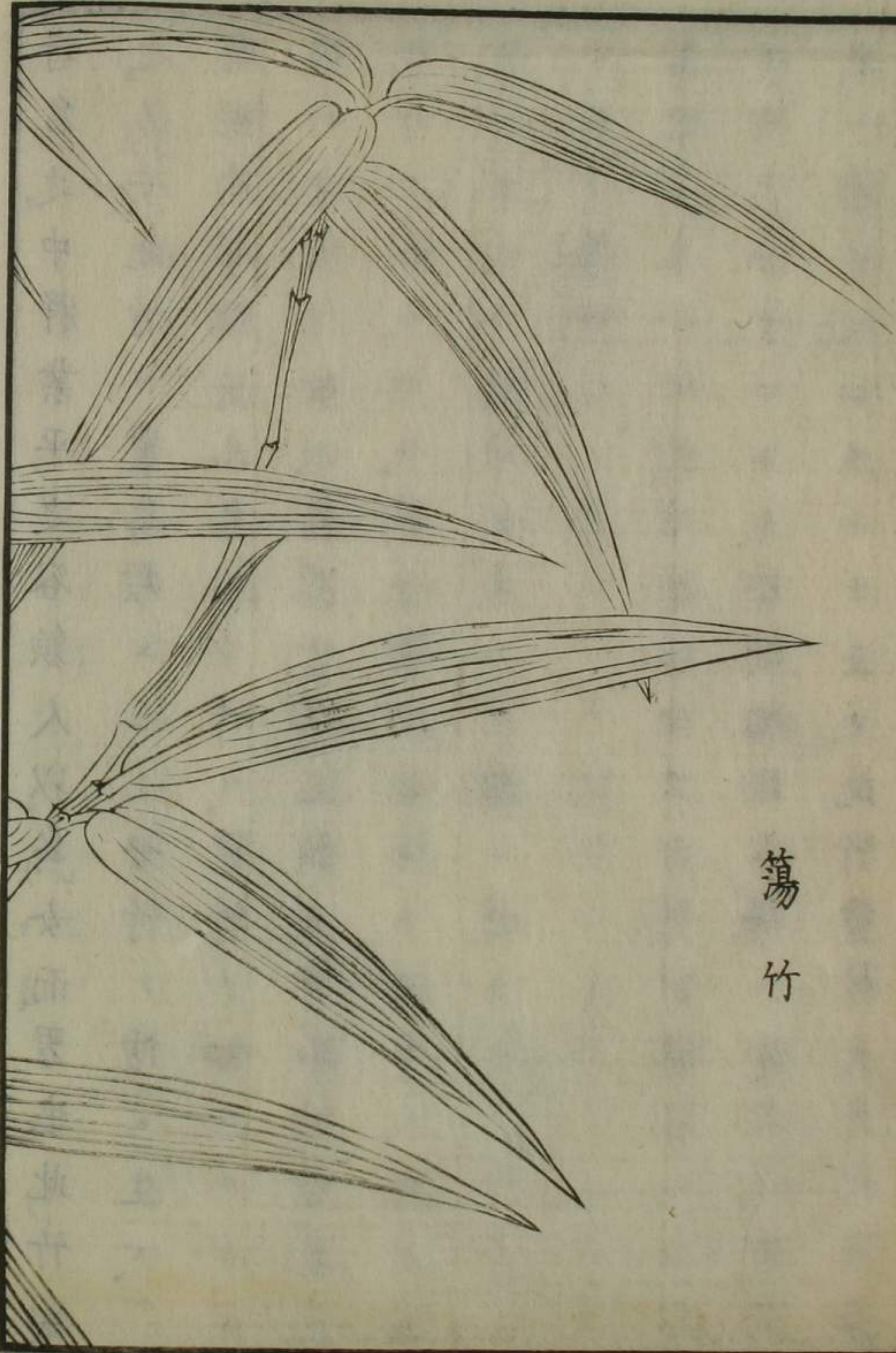
者名之、中將業平之容貌人以爲女而男也、此竹擬
 之名乎、此竹ハ叢生類ニシテ母竹ノ傍ニ生ズ、
 増補地錦鈔云、ふりひつ竹ハ、男竹ノ如クニシテ
 節ハ女竹ノ如シ、桂園竹譜正誤云、業平竹ハ其葉
 女竹ト云ヒ、一ハ、節女竹ノ如シト云フハ、共ニ誤
 リナリト、今該竹ヲ見ルニ實ニ然リ

蕩竹

蕩竹、一名小町竹、琉球名麻手古竹、形狀凡ベテ業
 平竹ノ如クニシテ、節間相距ル殊ニ遠シ、一節間
 米一升ヲ入ルベシト云フ、此竹豊後大角村ニ産



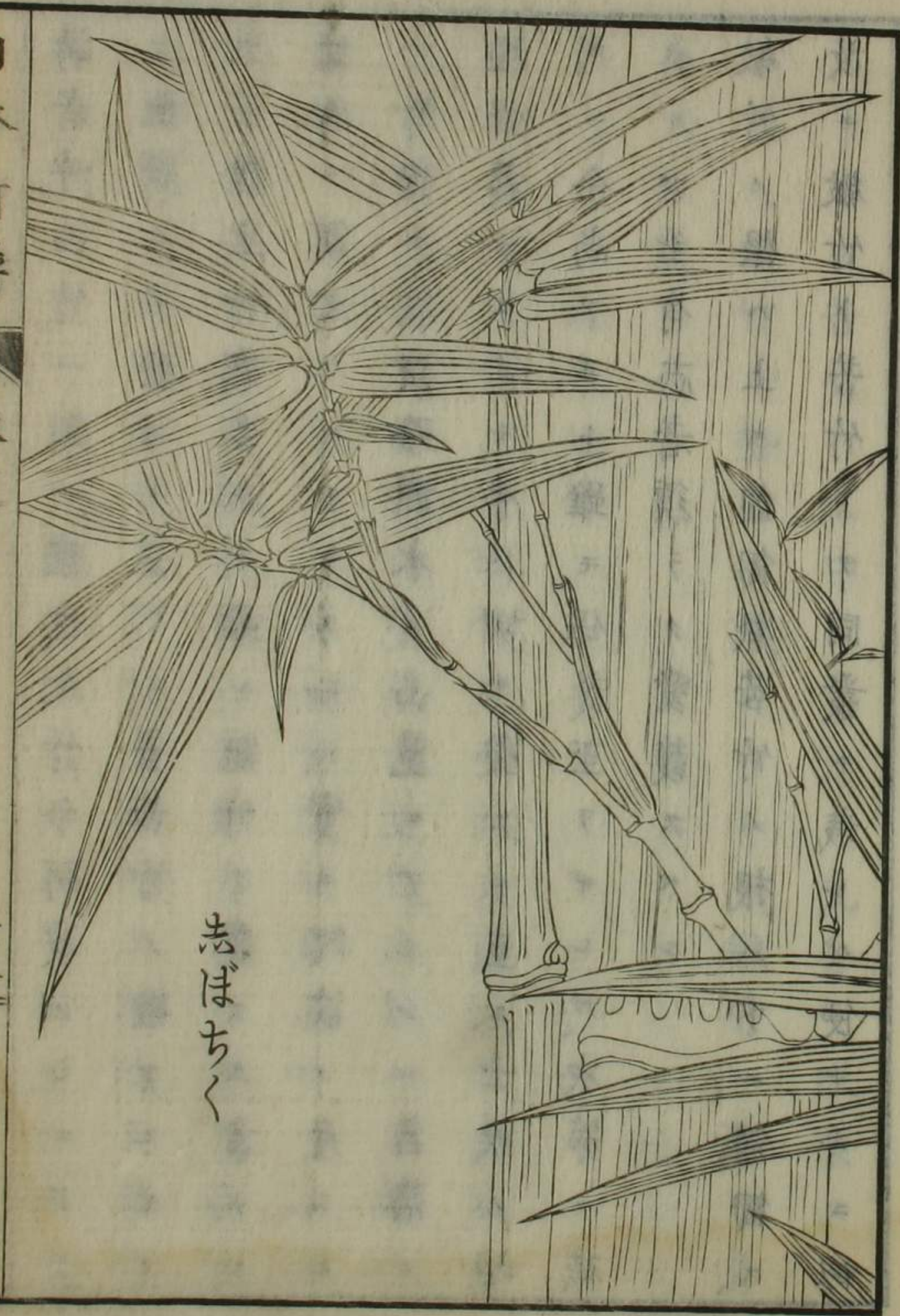
蕩竹



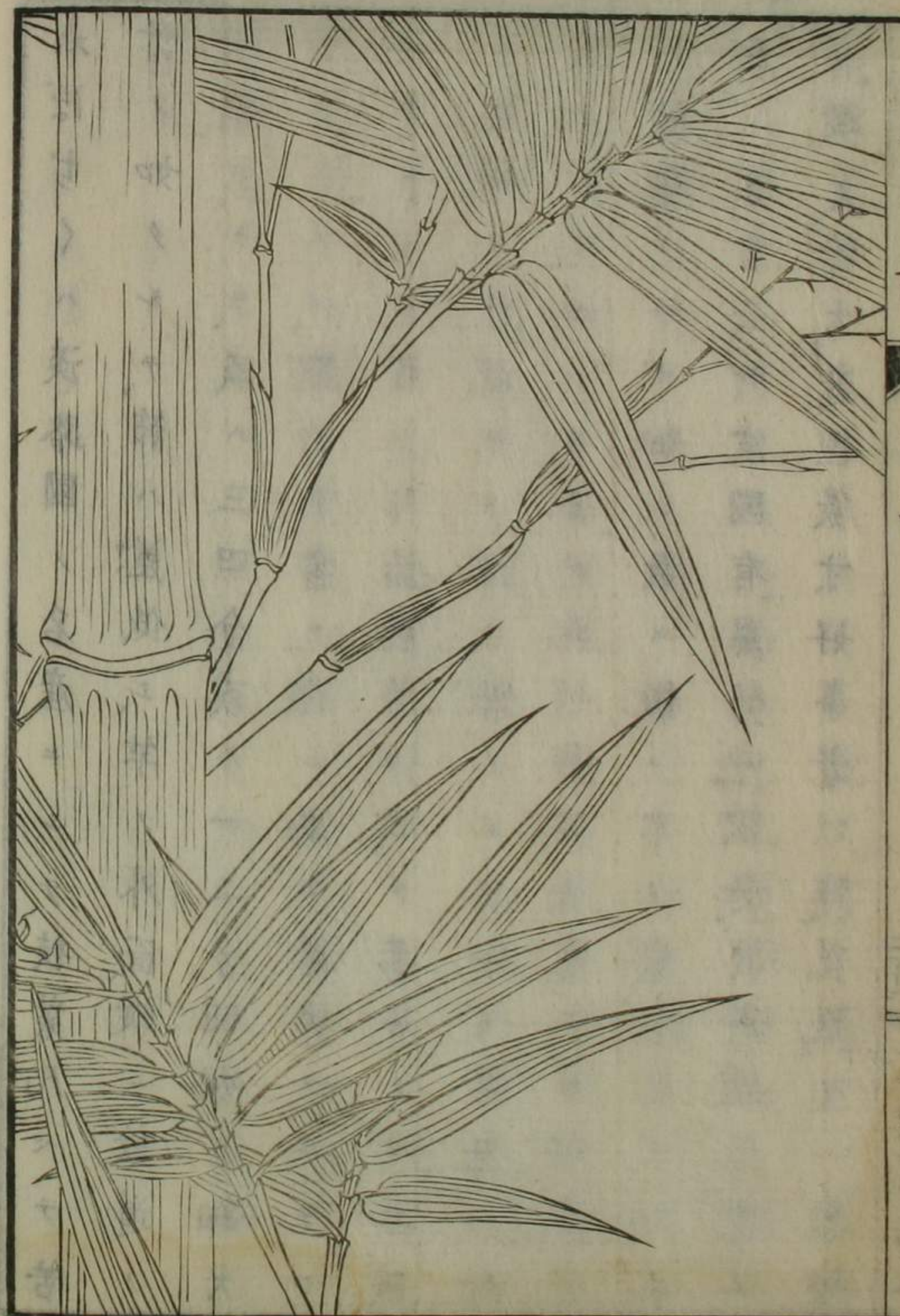
ス、同地ニテ之ヲ大角竹ト號ブ、竹ノ高サ一丈五
六尺、周リ二寸五六分、節隆起シ、節間相去ル凡一
尺餘、其枝殊ニ長シ、葉ハ苦竹ニ似テ極メテ大ナ
リ、五六月筍ヲ生ズ、暖地ニ在テハ、此竹最下節ニ
生ズル小筍ヲ採リ、地ニ植ルモ亦能ク活スト云
フ、字書ニ云フ蕩ハ大竹ヲ云フナリト、此竹漢土
ニ生ズルモノハ葉大ニシテ且密、節間相去ル一
丈ニ及ブモノアリト云ス、此竹又薩摩川邊郡硫
黄島ニ産ス、

去ぼちく

去ぼちくハ淡路國ノ名産ニシテ、枝葉凡ベテ苦
竹ノ如クシテ、節ハ差低シ、竿ノ外面、縦ニ數道ノ
凹線アリテ、或ハ三四分或ハ一二分凹線ノ細大
均シカラズ、皺竹ト書ス、俗ニ物ノ萎瘁スルヲシ
ボムト云フ、蓋シ外面新竿ヲ伐テ萎瘁シタル狀
ニ彷彿タリ故ニシボト呼ブナラン、又皮膚ノ皺
皴アルヲ、シハト云フ、此竹凹線數道アル猶皮膚
ノ皺線アルガ如シ、故ニ皺ノ字ヲ載シナラン、本
草一家言云、阿波國有異竹呼皺竹、其幹皺面線路
有縦文、幹大者、徑數寸、好事者以作花瓶、又一種線



志ばちく



溝者呼_レ山竹_ト一類一種也、此竹今阿波ノミニアラ
 ズ他國ニモ産スト云フハ、皆苦竹ノ皺アルモノ
 ナリ、漢土竹類多シト雖モ、皺竹ヲ載スル書ナシ、
 皺竹ハ漢土ニモナキヲ知ル、實ニ阿波ニ産スル
 一奇竹ナリ、淡路洲本ノ山麓ニアリシハ舊藩ノ
 頃保護アレドモ、今ハ切り盡スニ至ル、士族ノ邸
 内ニ今尚アリト雖モ、保護至ラザレバ、次第ニ減
 少スベシ、有志者須ラク愛護スベシ、
 皺竹ノ根ハ上ニ匍匐シ、苦竹ノ根ハ下ニ匍匐ス、
 故ニ皺竹ト苦竹トヲ同叢ニ栽レバ便ナルニ似

タレドモ、苦竹ハ土中ノ養汁ヲ充分ニ吸食スル
 モノカ、苦竹ノ勢力ハ熾ニシテ、皺竹ハ遂ニ負
 ケテ枯衰スト云フ、

きんめい竹

きんめい竹、俗ニ金明竹、又金竹、又筋竹、又志_レ後_レ金
 け、伊勢ノ方言、金銀竹、豊後青葉竹、土佐ニテ縞竹、
 豊前ニテひよんちく、漢名、黄金間碧玉竹、一名金
 壞碧嵌竹、一名斑挑杖竹、一名對青竹、一名青黄竹、
 又越閃竹、又略金竹、又閃竹、又黄竹、又間竹、又界竹、
 此竹大ナルモノハ、高サ一丈五六尺、周リ二三寸、

小ナルモノハ高サ四五尺、大サ指ノ如シ、其節凸ク頗ル苦竹ノ如シ、外皮黄色ニシテ翠碧ノ縦道アリ、或ハ一行、或ハ二行、大抵青黄色ヲ互ニスルモノ多シ、此竹外皮或ハ黄色、或ハ碧色ナリト雖モ、之ヲ横截シテ竹肉ヲ見レバ、他竹ノ如ク純白ナラズ、凡ベテ淡青色ヲ帯ブ、其葉モ亦苦竹ニ似テ葉面ニ細ク白キ縦道二三行アリ、青翠ナラズ、此筍六月頃生ズ、食フベシ、其籜青黄紅ノ縦道數行アリテ、又紫斑點アル頗ル苦竹ノ如シ、枝葉幹ノ美麗ナル畫クガ如シ、今花戸及ビ人家庭園ノ

裝飾、或ハ盆玩ニ過ギズ、暖地ニシテ能ク培養セバ、林ヲ成スニ至ルベシ、一友、金明竹一株ヲ盆中ニ植ヘ、水ヲ盛り石上ニ案シ、之ヲ愛玩ス、護寒ノ注意到ラズ、金明竹萎瘁シテ遂ニ枯ル、ニ至ル、救済ノ法ナシトシテ其儘之ヲ庭園隅ニ放擲ス、然ルニ金明竹ノ枯枝、葉ヲ生ジ、枯根、筍ヲ生シ翠然新竿ヲ生ズ、依テ盆中ノ腐水ヲ換ヘントスルニ際シ、死鼠ノ腐爛シテ石下ニアルヲ發見シ、枯竹ノ蘇生スルハ、死鼠ノ肥養ニヨルヲ知り、取テ水ヲ換ヘズ、枯葉枯枝ヲ剪除シテ、其年寒ヲ護シ、



三十六

真無畏殿版



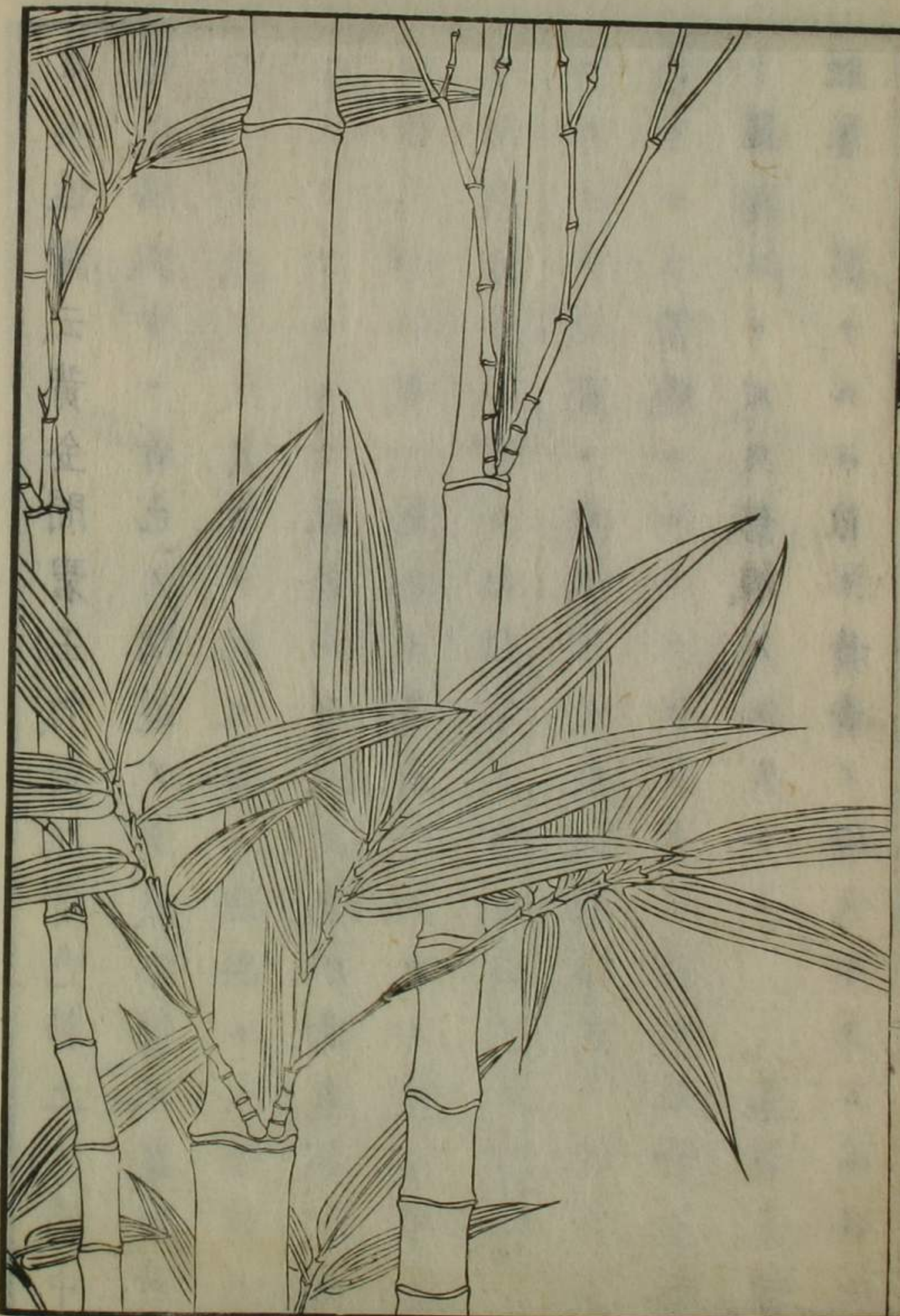
きんりい竹

翌春ニ至リテ石ヲ脱シ、土ヲ入レテ之ヲ養ヒ遂ニ金琅玕ヲ生ズルニ至レリ、和漢三才圖會云、銀明竹者、筠色白、惟溝中綠色甚美也、槁則綠變、一如尋常竹、是レ金明竹ノ風土ニ依テ變色セシナル可シト、桂園竹譜ニ見ヘタレ、奥州寒澤港近傍ノ某家ニ、銀明竹ト稱スルモノアリ、大ナルモノハ周二三寸、節間相去ル二尺餘、小ナルモノハ周寸許、節間尺内外、女竹ニシテ白キ縦線アリ、四分及び二分許ノ二行ノ白筋アリテ美ナリ

草木性譜云、黄金間碧玉竹、金肌黄色節上ノ溝中青色、偶肌中ニ青色ノ間道アリ、枝亦同ジ、葉ニ黄色ノ間道アリ、复筍ヲ生ズ、擗ニ斑點アリ、苦竹ノ如シ、大ナルモノ圍尺ニ及ブ、又全肌青色、節上溝中黄色、偶肌中ニ黄色ノ間道アルモノアリ、是碧玉間黄金竹ナリト、金明竹ハ黄色ニシテ碧線アルモノアリ、是レ尋常ノ黄金間碧玉竹ナリ、又碧色ニシテ黄線アルモノアリ、之ヲ碧玉間黄金竹ト區別スレ、只碧線ノ細大アル、ミ、氣候土質肥養ノ異ナルニ依リ黄青ノ線大小アルハ怪ム



黄金竹



ニ足ラズ、故ニ青黄竹ノ名穩ナリト云フ可シ、相傳フ慶長年中、加藤清正朝鮮ヨリ携ヘ歸リシト云フ、此竹筍ヲ生ズル他竹ト異ナルナシ、九月ヨリ十二月ノ間ニ伐採スレバ、緑文年ヲ經テ消セズ、提籃或烟管、筆管等ニ用テ一種ノ雅味アリ、

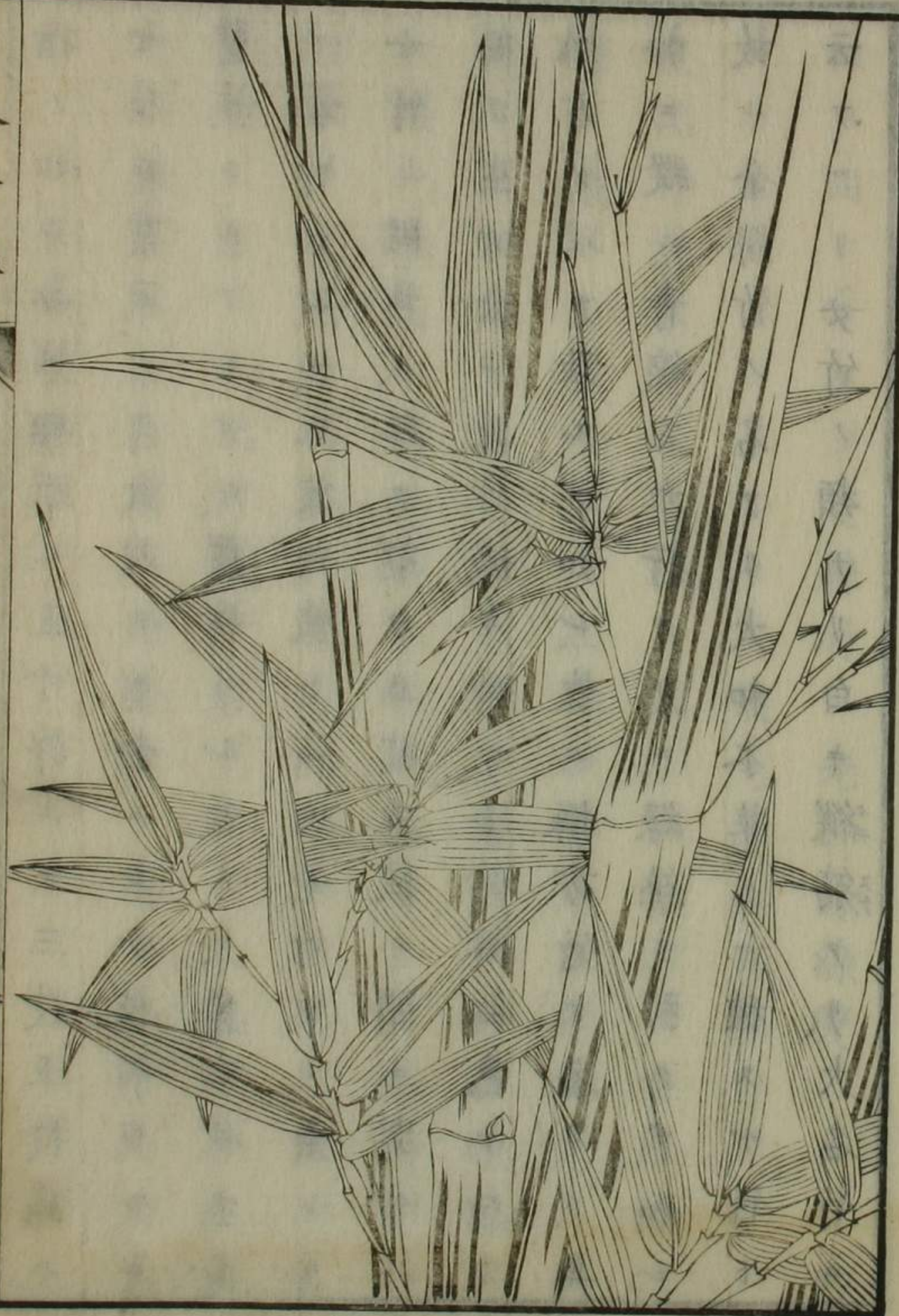
黄金竹

黄金竹ハ、漢名金竹、又黄竹、又黄皮竹、又黄竿、此竹薩摩琉球及ビ安房等ニ産ス、竹譜詳録ニ云フ、金竹生江浙間、一如淡竹、汝南圃史ニ金竹、幹色純黄似金、桂園竹譜ニ云フ、琉球薩摩ニ産スルモノハ

苦竹ニ似テ小ナリ、又安房ヨリ出ルモノハ高サ二丈許ニシテ生竹ノ時ハ、サマデ黄色ニアラズト雖モ、乾ス時ハ、其色鮮黄、頗ル真金ノ如シ、黄金竹ハ全幹黄色ニシテ他色ノ線ナキモノナリ、黄金間碧玉竹ト枝葉形狀相似テ幹全ク異ナリ、混ズベカラズ、

すまうちく

すまうちく竹、一名高麗竹、漢名金絲竹、又白絲竹、一名刷絲竹、一名七絲竹、肥後ノ方言緑絲竹、桂園竹譜ニ云フ、幹節并ニ女竹ニ似テ高サ三五尺、大サ小



たをうちく

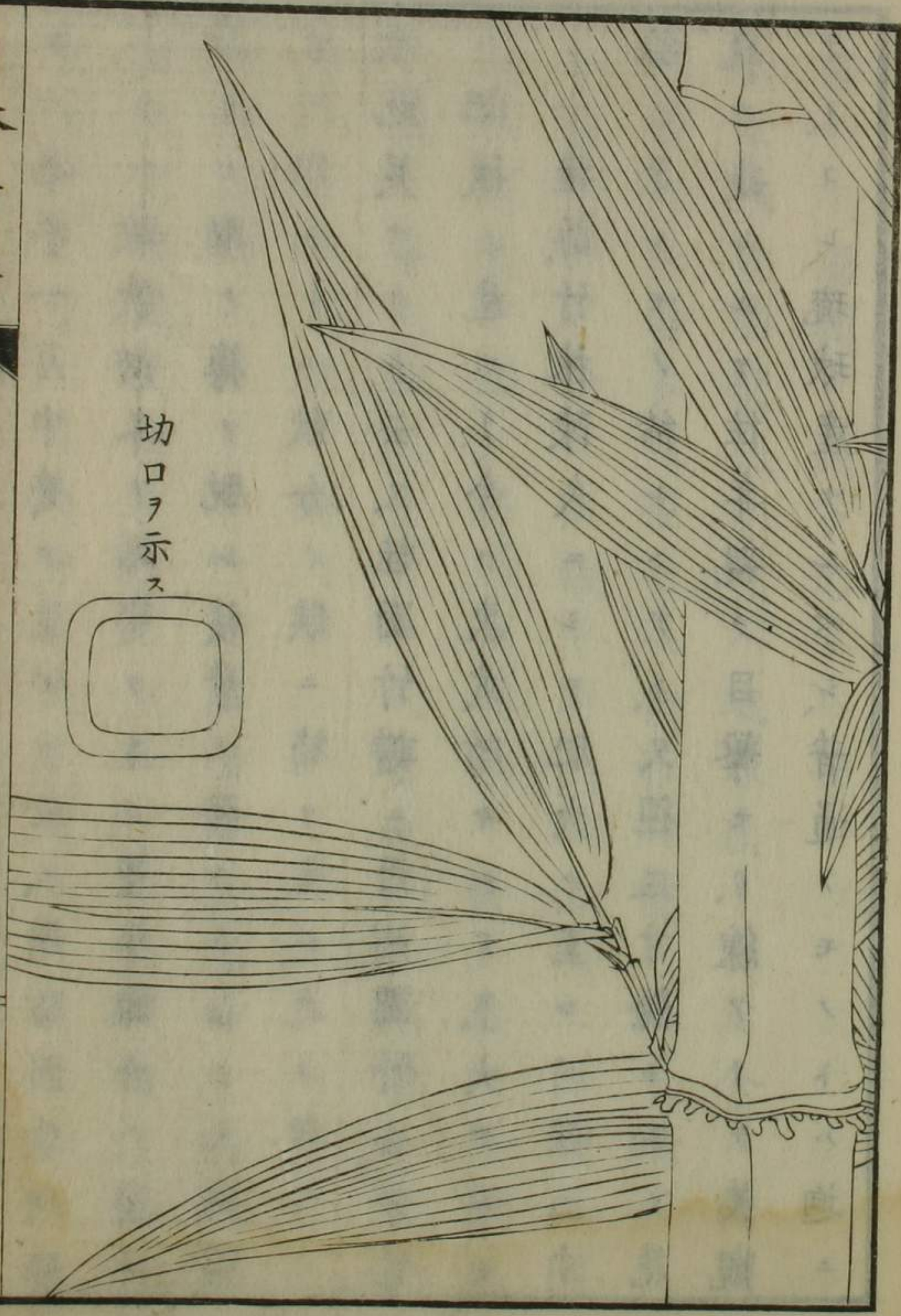
指ノ如シ每節相距ル五寸許ニテ三枝五枝或ハ
 七枝ヲ叢生ス、又大枝ヨリ分レシ小枝ニ至テハ
 雙枝ナルアレドモ、獨枝ナルモアリ、其三枝ナル
 ハ若竹ニシテ、五枝七枝トルハ老竹ナリ、是レモ
 女竹ト同ジク、年ヲ經テ三枝五枝ノ間ニ別ニ二
 筍ヲ生ズ云々此竹嫩キ時ハ、全幹鮮紅色ナル
 榦方ヲ以テ染ルガ如シ、故ニ榦方竹ノ名アリ、其
 幹ニ縱ニ青線五六行アリテ、緑絲ヲ引クガ如シ、
 故ニ金絲竹ノ名アリ、大和本草ニ一種スゲ竹ト
 云フアリ、女竹ノ類ナリ、白キ縱筋アリ、大名竹ニ

似テ同ジカラズ、金絲竹ノ老幹緑線變ジテ白色
 トナリシモノナルベシ故ニ漢名白絲竹ノ名アリ、
 此竹薩摩ヨリ東都ニ奉リシトアル由、桂園竹
 譜ニ載セタリ、相傳フ往時加藤清正朝鮮ヨリ携
 歸シテ肥後ニ栽ユ、今其遺種繁茂ス方言緑絲竹
 ト稱シ、肥後ノ人之ヲ貴重ス、明治十年博覽會ノ
 時初メテ該竹ヲ見ル、此竹朝鮮ヨリ來ル、故ニ高
 麗竹ノ名アリ、此竹活シ易シ、故ニ人家多ク盆盎
 中ニ植ユ草木性譜ニ金絲竹ヲ載セテ詳ナリ

志かく交け

志かくむけ漢名方竹、俗ニ四角竹、又四方竹ト云
 フ竹ノ形状、苦竹ニ似テ軟カニ徑寸許、鈍四稜ニ
 シテ正角ナラス杖及ビ卓脚、又茶室ノ柱トナシ
 テ頗ル佳ナリ、此竹琉球ヨリ傳フト云フ、暖地ニ
 生ズルモノハ頗ル長大ナルモノアリ、高サ大許、
 每節相去ル三四寸、周四五寸、根上一二節鬚根多
 ク生シ、三四節ヨリ以上ニ至テモ每節上、疣ノ状
 フ列ス、鬚根ヲ生ゼント欲スルノ状ニ似タリ、故
 ニ相模ノ方言之ヲ「イボダケ」ト稱ス、此竹移植ハ
 梅雨中ヲ最モ可トス、又此竹ヲ梅雨中ニ二三節

間ヲ伐リ採リ、地ニ捲セバ疣状ノモノ延出シテ
 鬚根ヲ成シ、活スルヲ多シ、外皮ハ淡青ニシテ糙
 澁アリ、葉ハ苦竹ニ比スレバ差狭小ニシテ、葉末
 最モ尖レリ、枝ハ根上十二三節ヨリ生ジテ短小
 ナリ、新枝三四葉ヲ一朶ト爲シ、舊枝五六葉或ハ
 七葉ヲ一朶トス、方竹ノ筍ハ、復月生ズルモノアリ、
 秋ニ至リテ生ズルモノアリ、秋生ズルモノハ
 明年ニ至リ始テ枝葉ヲ發ス、其籜紫色ノ小斑點
 アリテ美ナリ、筍味モ亦可ナリ、此竹出筍ノ候同
 ジカラザルハ人ノ知ル所ナリ、相模國高座郡ニ



切口ヲ示ス



去かく爰け

テハ毎年一月中筍ヲ生ズト云ヒ、周防國玖珂郡
ニテハ晩秋初冬ノ頃筍ヲ生ジ、翌年梅雨ノ頃ニ
至リテ漸ク籜ヲ脱シ枝葉ヲ發スト云ヒ、土佐國
吉川郡ニテハ秋分ノ候ニ筍ヲ生ジ、之ヲ食フニ
味絶美ナリト云フ、桂園竹譜ニ丹州圖竹云、方竹
ハ肥後ノ産ナリ、今ハ東武所々ニアリ、大ナルモ
ノ一握許、竹林陳久ニシテ肥大ニ至レバ徑二寸
餘ニ至ルモノ稀レニアリ、又徑三寸餘ナルヲ花
瓶ニ造レルヲ往年親ク目撃セリ、線アリテ美觀
ナリ、コレ琉球産ナルベシ、普通ノモノトハ迥ニ

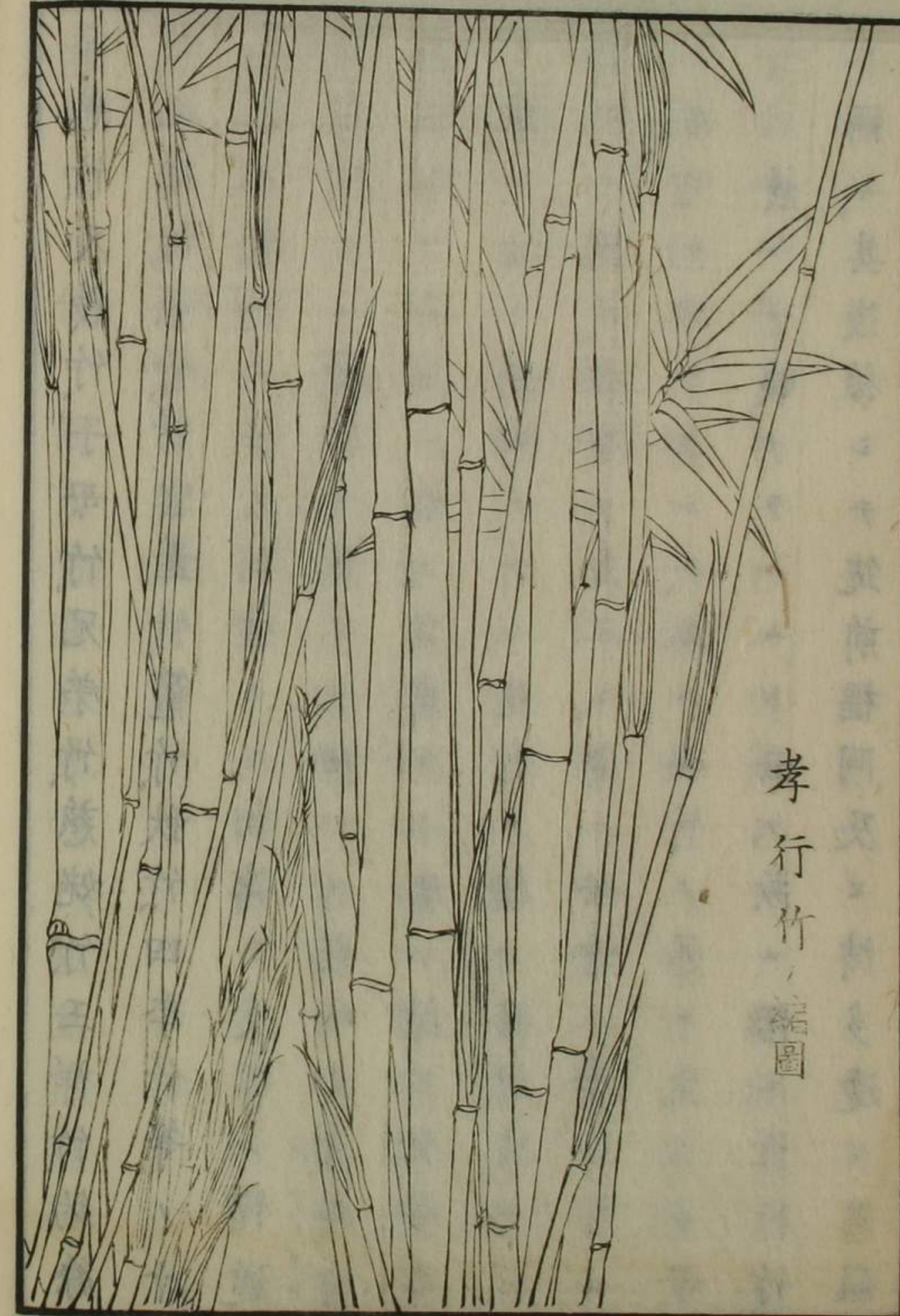
異ナリ、鋸斷ノ處方形ナリ云々、
本草綱目啓蒙云、方竹ハ琉球産ナレトモ今ハ諸國
ニ栽ユル者多シ、徑七八分、形四稜ニシテ銳ナラ
ズ、全身砂ノ如ク粗糙ニシテ、根上ノ三四節四圍
ニ小根通り出テ刺ノ如シ、故ニ斷テ土ニ挿挿シ
テ活シ易シ、用テ杖トナス、唐山ニハ大竹ニモ方
ナルモノアリト云フ、
竹譜詳録ニ云フ方竹ハ、雨浙江廣處々有之、枝葉
與苦竹相同、但節莖方正如益母草狀、深秋出筍、經
年成竹、高者ニ丈許、無甚大者、爲柱狀、最佳云々、方

竹ハ漢土ニ生ズルモノ間實心ノモノアリト云
 フ、本邦ニ産スルモノハ、肉薄クシテ軟脆ナリ、杖
 ヲ作り器具ヲ製シテ頗ル佳ナリ、凡竹ハ圓體ヲ
 常トス、此竹獨リ方正、故ニ奇トシ世ニ賞セラレ
 竹節ヲシテ短促ナラシムル一法アリ、筍ノ方ニ
 地ヲ出ルヲ候ヒ、其箨ヲ剥脱スレバ、節間相促リ
 頗ル奇ナリ、之ヲ用テ茶室或ハ書齋ノ欄杆トナ
 シテ最モ雅ナリ

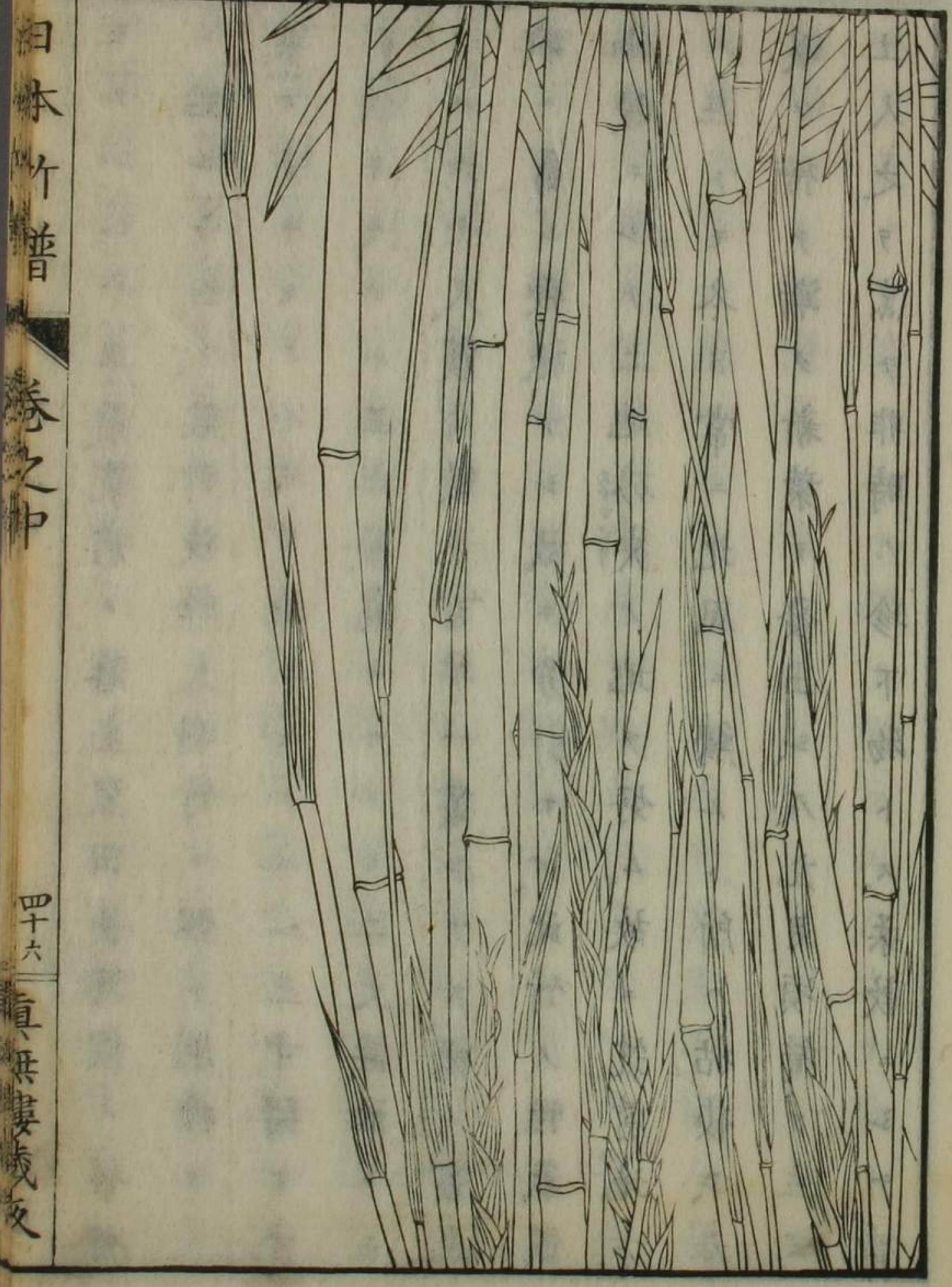
孝行竹ハ俗ニ南京竹、漢名孝順竹、桂園竹譜譯名

孝行竹

ニ慈竹、又義竹、子母竹、兄弟竹、慈姥竹、王祥竹、釣絲
 竹、桃絲竹、赤竹、紫雲蓋竹、籠竹、秋竹、四季竹等ノ十
 數名ヲ載セテ異名同種トス、相傳フ支那ノ僧道
 本歸化セシ時、携ヘ渡リテ初メテ長崎ノ支那寺
 崇福寺ノ山上ニ栽ヘ其處ニ小庵ヲ結ヒ竹林庵
 ト號ス、故ニ長崎ニテハ此竹ヲ指テ唐竹、或ハ竹
 林竹ト稱ス、亦筍ヲ生ズル、復ハ母竹ノ内ニ生ジ
 テ母竹ヲ涼ナラシメ、冬ハ母竹ノ外ニ生ジテ母
 竹ヲ護シテ暖ナラシムト云フ、故ニ俗ニ孝行竹
 ト稱ス、其後移シテ筑前福岡及ビ博多邊ニ蕃殖



孝行竹 縮圖



セシハ二十年前、筑前ノ藩主黒田長溥侯ノ移植ニ始ルト云フ、該竹枝幹大明竹ニ似テ別種ナリ、葉ノ長キモノ七八寸短キモノハ二三寸闊サ寸許、狭キモノハ五六分、高キモノハ二丈許、短キモノハ六七尺、簇生數十百竿一叢ヲナス根ハ叢生類ニ屬シ鞭根ナシ故ニ旁引セズ、此竹ノ性氣候温暖ニシテ土地砂夾ノ地ヲ好ム、故ニ筑前地方ニ在テモ冬日常ニ北風ニ觸ル、所ハ枯損シ、春暖ヲ待テ漸ク新葉ヲ發出シ、八九月頃筍ヲ生ズ土人之ヲ烹テ非時ノ珍下物トス、柔軟ニシテ筍

味甘美ナリ、籜ハ年ヲ經テ脱セズ、人之ヲ取リテ茶媒トス、輕滑最モ佳ナリ、其竹内實而味甜大和本草云慈竹本草曰一名義竹、叢生不散、人裁爲玩、今按是近年所來唐竹歟、或曰南京竹、天寶遺事云有竹叢密筍不出外、因號義竹、云々、秘傳花鏡云孝順竹ハ幹細而長、作大叢、復則筍從中發涼讓母竹、冬則筍從外護母竹、内包故稱慈孝、本草綱目啓蒙云慈竹ハ竹細ク高サ六七尺ニ過ギス、其筍叢生外ニ出ズ、桂園竹譜益部方物略記ヲ引テ云ス、慈竹性叢生

根不外引云々別有數種節容八九寸者曰籠竹一尺者曰苦竹弱梢垂地者曰釣絲竹或取節修膚緻者用爲簞笠

今按ズルニ一種鳳尾竹ニ似タル慈竹アリ、桂園竹譜ニ枝幹並ニ鳳尾竹ニ似テ每葉鳳尾竹ヨリモ長シトアルハ本草綱目啓蒙ニ云フ慈竹ニシテ今記スル所ハ大和本草云フ所ノ慈竹ニシテ秘傳花鏡ニ云フ所ノ孝順竹ナリ、秘傳花鏡云フ所慈竹ハ別種トス、曰慈竹其幹内實而節疎性弱而形緊其細韌可代藤用

孝行竹ハ暖地ニアラザレバ叢生セズ、神戸ノ瀛船問屋某筑前ヨリ之ヲ移植セシニ年ヲ經テ繁茂セズ、明治十四年筑前ヨリ一顆ヲ携歸シテ東京ニ栽培セシ人アリ、冬月護寒ニ注意シタレドモ遂ニ枯死シタリト云フ、地質氣候ノ頓ニ異ナルニ依ルヲ知ル

金山竹 附母子根竹

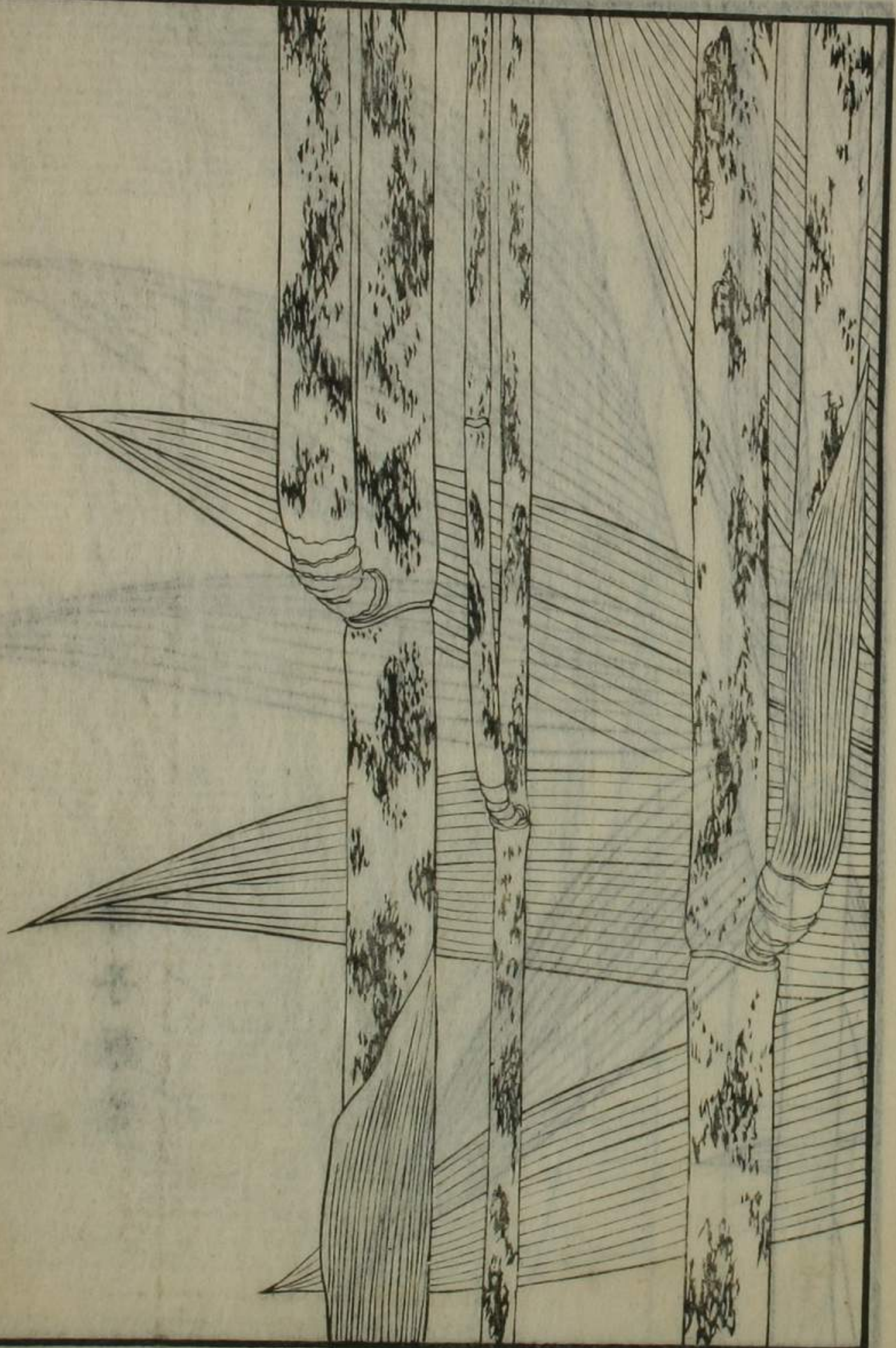
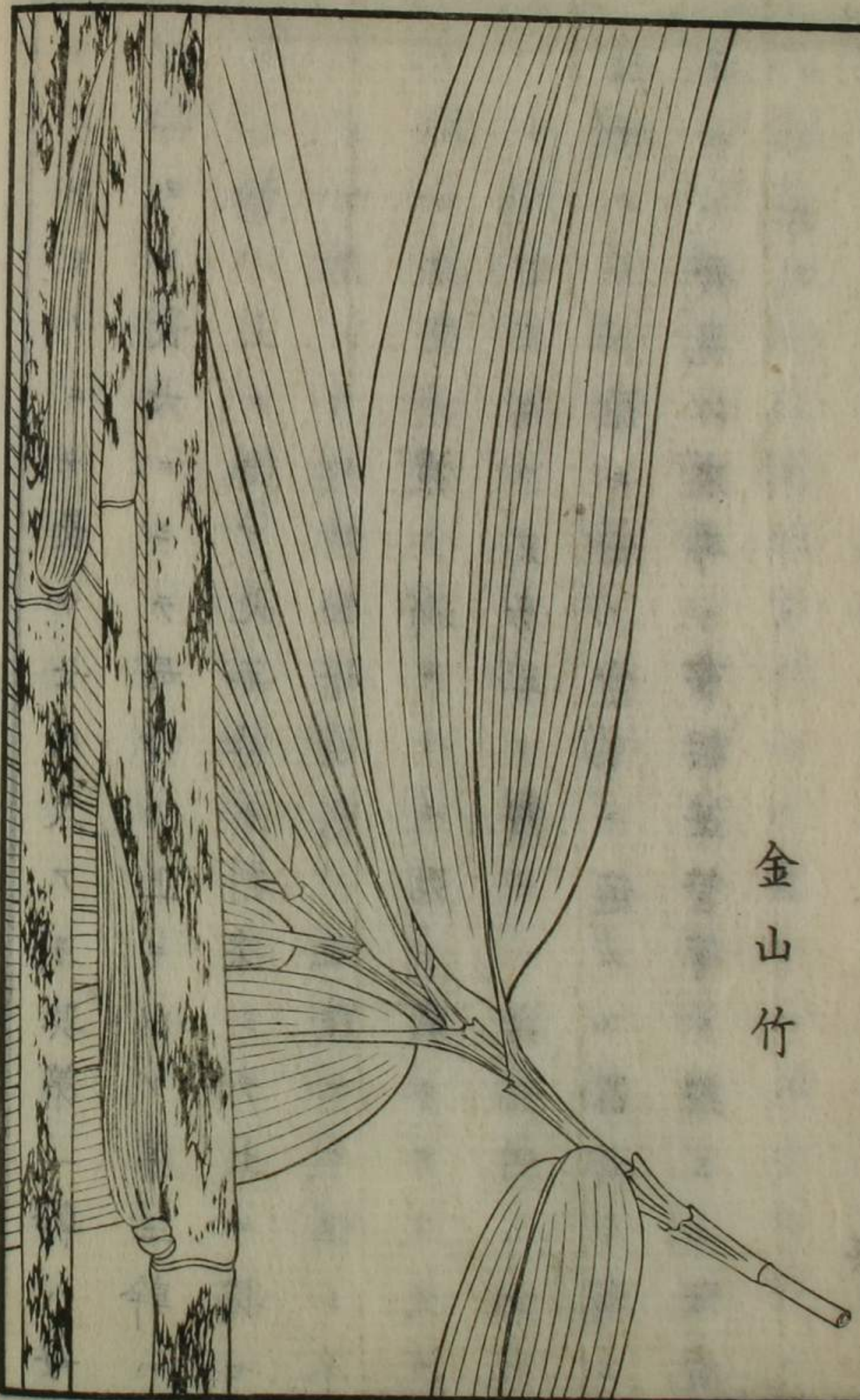
金山竹ハ明治十三年大隅國桑原郡山ヶ野金山ニ於テ白野氏發見ス、故ニ金山竹ト稱ス、目今近隣ノ諸山ニモ往々之ヲ見出セリ、是レハ箬竹ノ

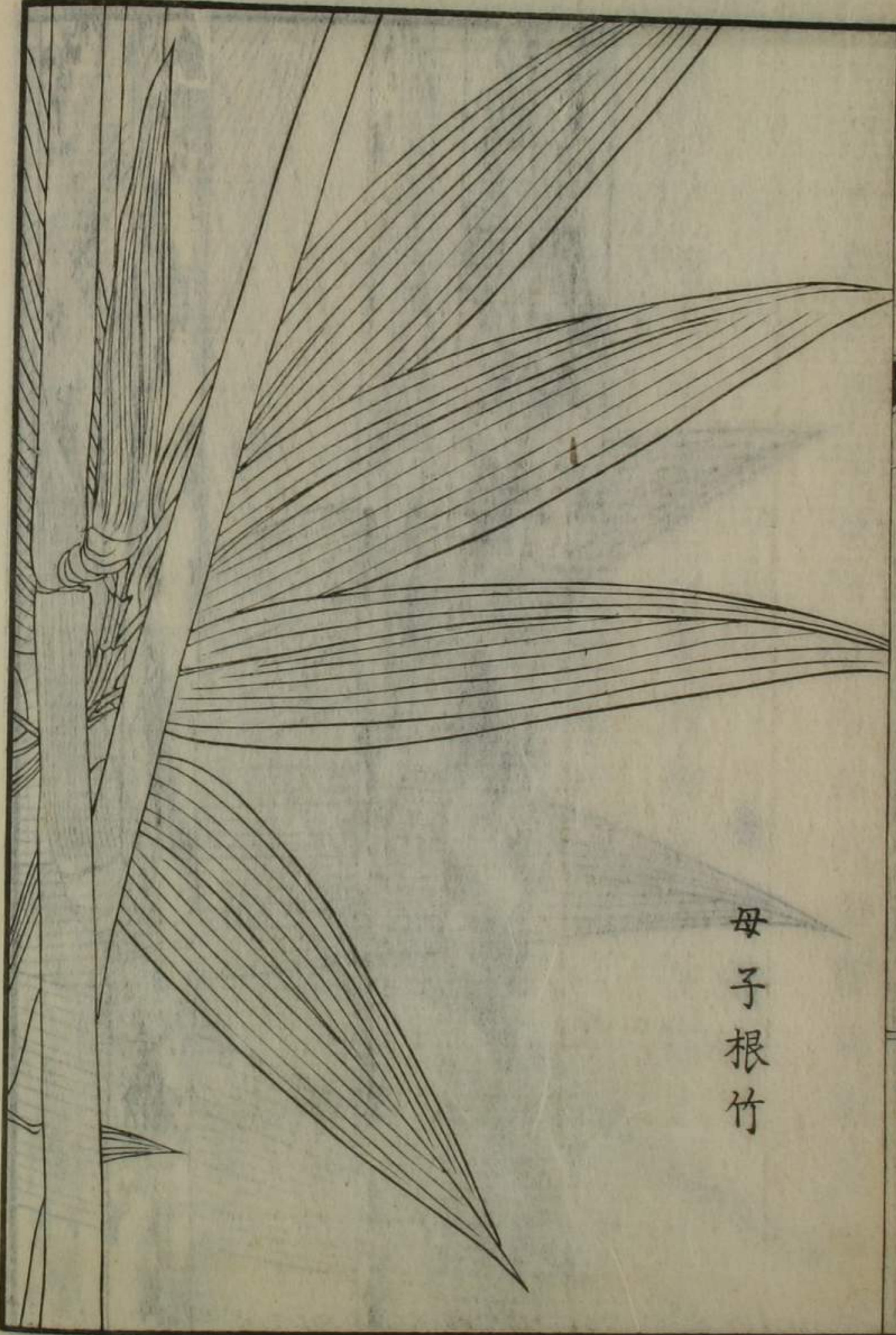
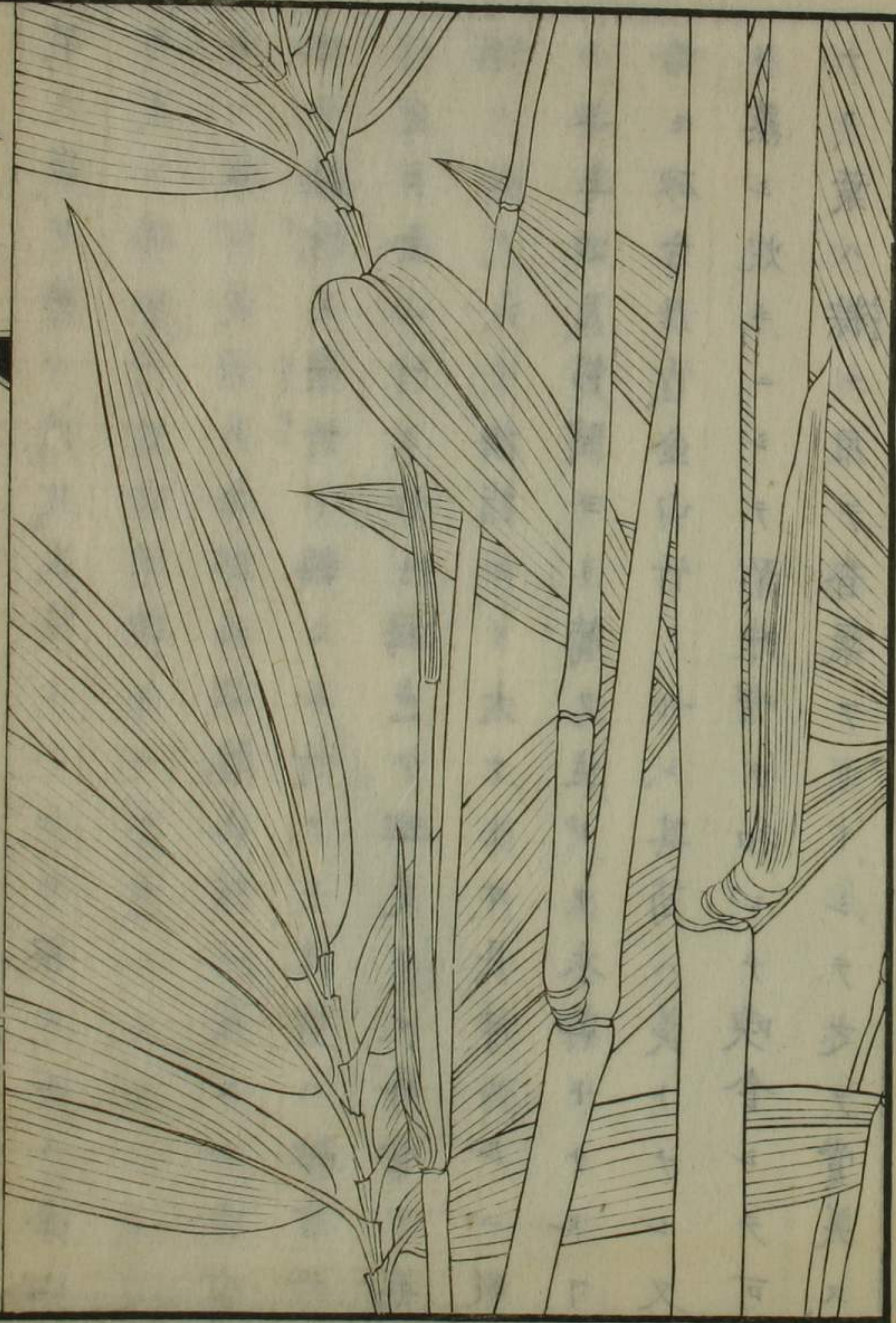
一種ニシテ竿ニ紫斑色アルモノナリ、其質堅硬肉甚厚、後志國砒古丹山ニ産スル砒古丹竹ト同ジ、大抵竹ノ鞭根ナキモノハ母竹ノ根下第四五節ヨリ第七八節迄ノ節上ニ筍ヲ生ズ、此竹及ビ砒古丹竹ハ地上本幹ノ每節筍ヲ生ジテ又本幹トナル、他竹ノ地下ニ在テ筍ヲ成スモノニ同ジ、是最モ奇異トナス所ナリ、故ニ每節筍ヲ生ジ本幹トナル、此竹今博物館ニアリ、該竹ヲ見ルニ、母竹每節筍ヲ生ジ、其幹母竹幹ヨリ長大ニシテ七八本アリ、其幹今在ルモノ梢ヲ去リ根ヲ切

リタルモノニテ長サ七八尺アリ、其第一幹ハ母竹幹ヨリ長大ニシテ、母竹ノ上ニ出ヅ、第三幹ハ第二幹ノ上ニ出ヅ、此每幹ヲ剥採シテ土ニ捲セバ必ズ活スベシ、竿面暗褐色ノ斑點アリ、但シ竿ニ因テ斑點淡濃ノ別アリテ殆ト黒キアリ、又淡キアリ、之ヲ用テ文房具ヲ製セハ湘妃竹ノ如キ風致ナシト雖モ世ノ需用ニ適スル器具ヲ製シ得ベシ、發見以來専ラ書架筆管等ヲ製シテ販賣スト云フ、

秘傳花鏡云、思摩竹ノ奇ナルハ在筍自節生_ニ竹成

金山竹





母子根竹

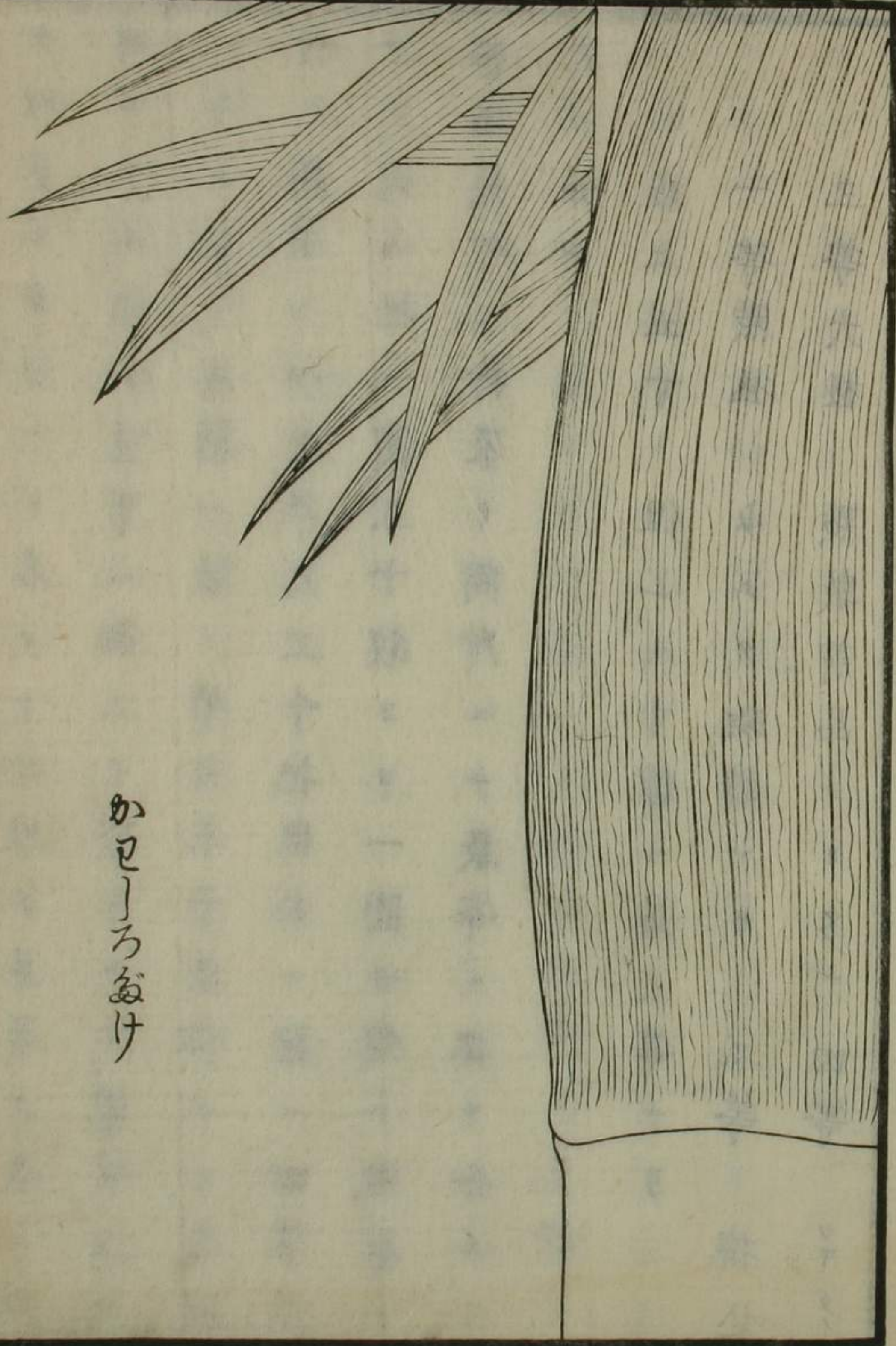
竿^ヲ之後、其節中復^タ又^タ生^ズ筍^トアルハ按ズルニ金山竹及ビ砂古丹竹ト同種ナルベシ

又一種阿波國美馬郡西祖谷山村ニ産スル方言母子根竹^{サカダテ}又榮竹ト稱スル竹アリ、此竹ハ砂古丹竹及ビ金山竹ノ如キ褐色ノ斑文ナク、尋常ノ篠竹^{ササ}ノ如ク、太サ拇指ヨリ大ナラズ、長伸スルニ從ヒ毎年四月、節間ヨリ筍ヲ生ジテ本幹トナルト恰モ砂古丹竹、金山竹ノ如シ、其筍ハ羨トナシ又ハ蒸シ焼キニシテ酢味噌ヲ和シテ喫食シテ可ナリ、葉ハ粽^{チマキ}ニ用テ香氣アリトシテ之ヲ賞美ス、

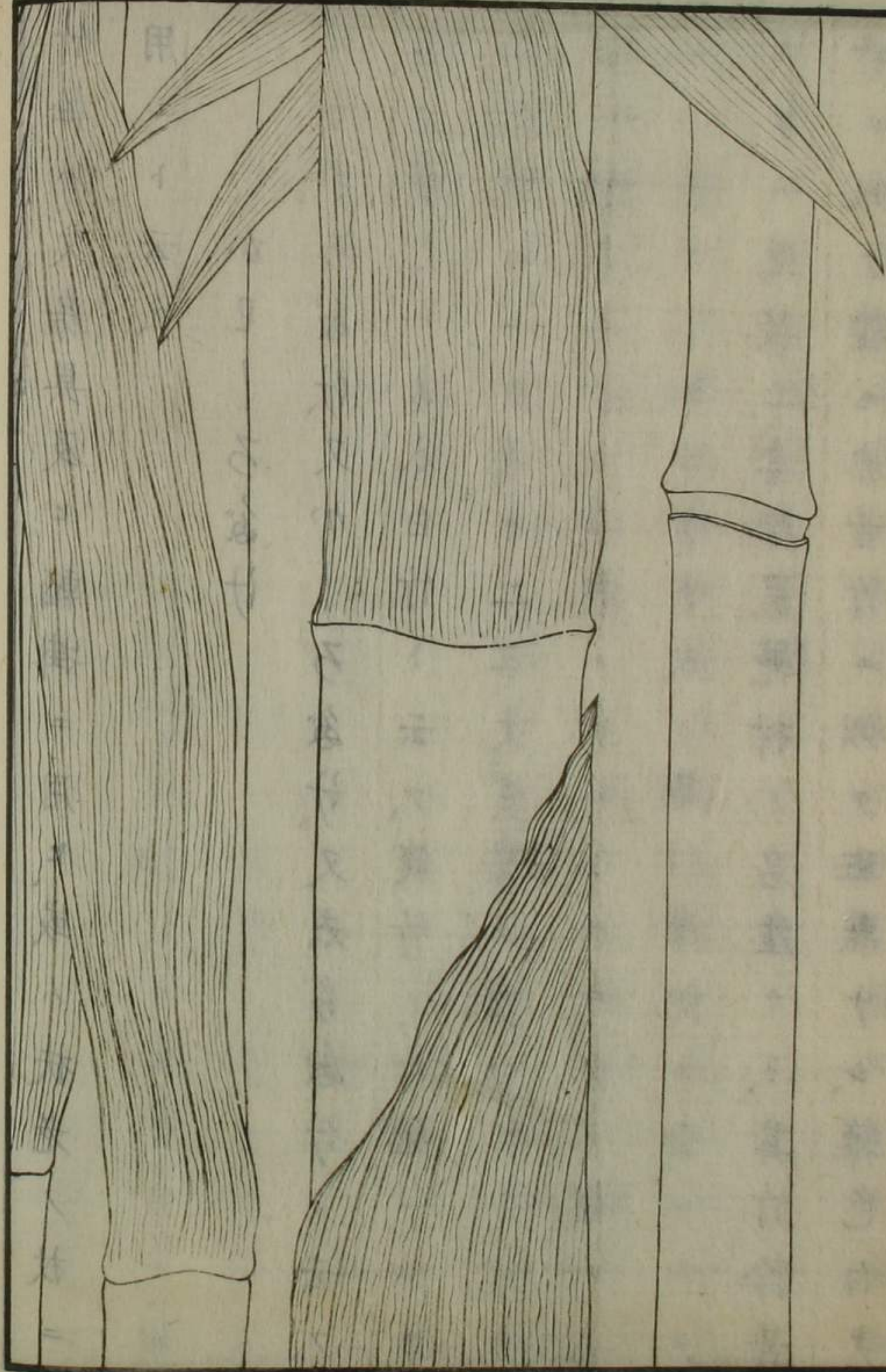
竹幹ハ文房具及ビ軸掛ニ用ヒ、或ハ扶老ノ杖ニ用ユト云フ、

かじりろふけ

うじりろふけ又かじりろふけ又志らふけト云フ、漢名董竹、一名水白竹ト云フ、淡竹ノ一種ニシテ每節疎ニシテ長サ二三丈、質堅ク籜白キヲ以テ世ニ稱用セラル、筑後ニテハ、シラタケト稱スルモノ是ナリ、田中芳男氏ノ旅行筆記ニ云フ、シラタケハ筑後上妻郡星野村ノ名産ナリ、其竹幹苦竹ニ似テ籜モ亦苦竹ニ似テ斑點ナシ、籜色白キ



かじろあけ



ヲ以テシラタケノ名アリ、今以テ草履ノ表ニ稱
用セラル、但シ竹竿ハ細工ニ可ナラズ、筵ニ造ル
ノミト云フ、其籜一駄ノ價金七十圓位ナリ、星野
村ノ産出ハ一ケ年凡三千把但シ一把ハ四貫目
ナリ、此一把一圓五十錢ヨリ一圓廿錢ノ由、籜ハ
皆福島町へ持來リ同所ニテ數等ニ撰リ分ル
左ノ如シ

- 極上五寸 但シ八寸籜ハ最上等ナリ
- 一等點極 少シク斑點アリ 二等 撰込
- 三等大極 點數前品ヨリ多シ 四等 ツキダイ

五等上中 六等 中

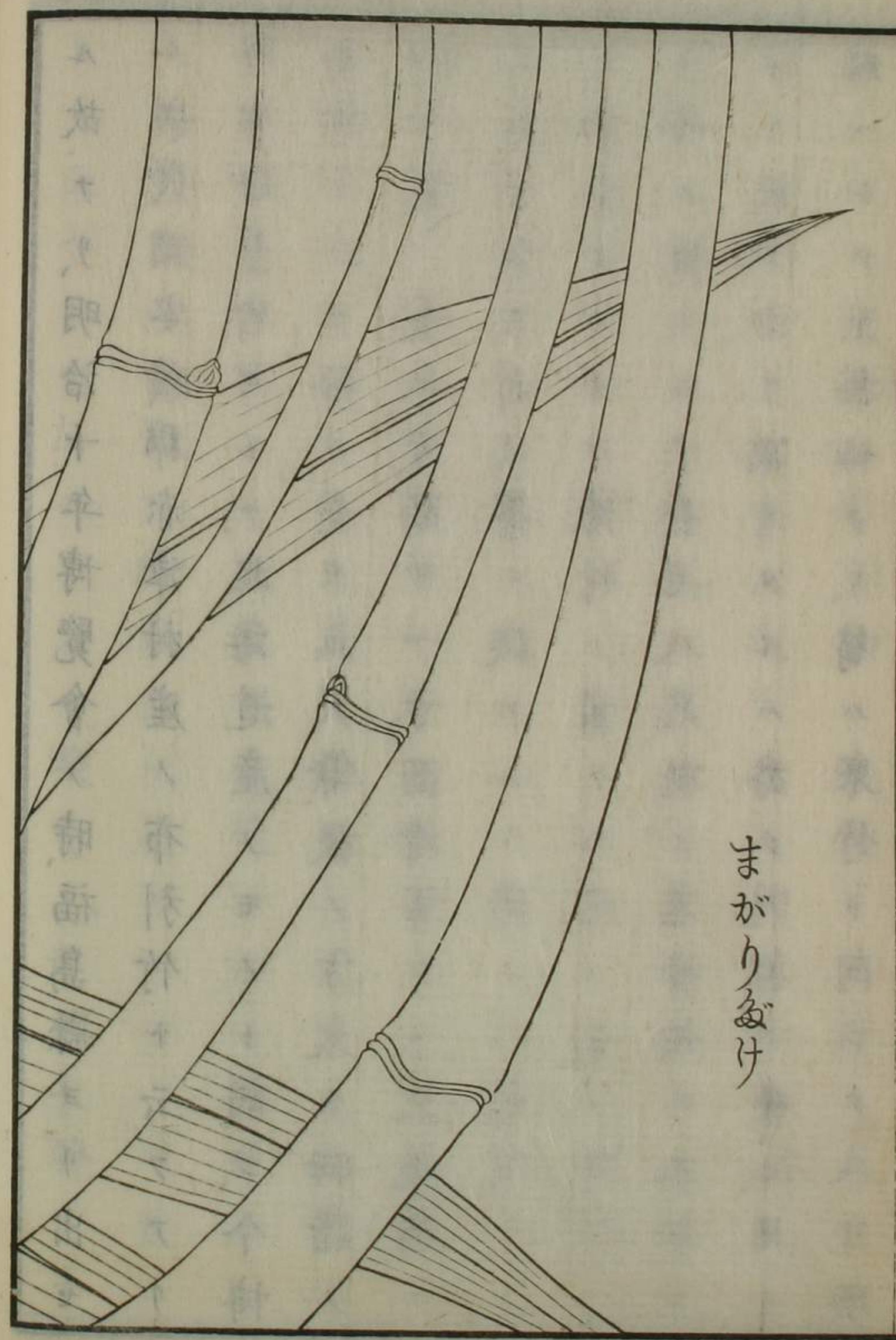
但シ竹ノ根抵ノ籜ハ最下等ナリ
外ニ大測及カゴ北河田等ハ産ノ上ナリト云
此筍ノ出ル遅ク淡竹筍一丈餘、苦竹筍二尺餘ノ
時シラタケノ筍ハ漸ク一尺ヨリ長カラズ、筍ハ
淡竹ニ異ニシテ略苦竹ニ近シト、元來東京地方
ニテ苦竹ノ枝籜ヲ採收シテ草履ノ表トス、苦竹
ノ籜ハ褐色點アリテ下等ノ草履ヲ製スルニ過
ギズト雖モ、枝籜ハ斑點ナク色白クシテ薄シ、故
ニ上等ノ木履ノ表トシ又ハ上等ノ草履トナス

然レドモ、從來上等皮鞋ノ表、及ビ草履ノ表ハ皆
 下リト號シテ販賣スルモノアリテ該シラタケ
 ノ籜モ筑後ヨリ大坂ヲ經テ東京ニ來ルモノ多
 ニ居ルト云フ、

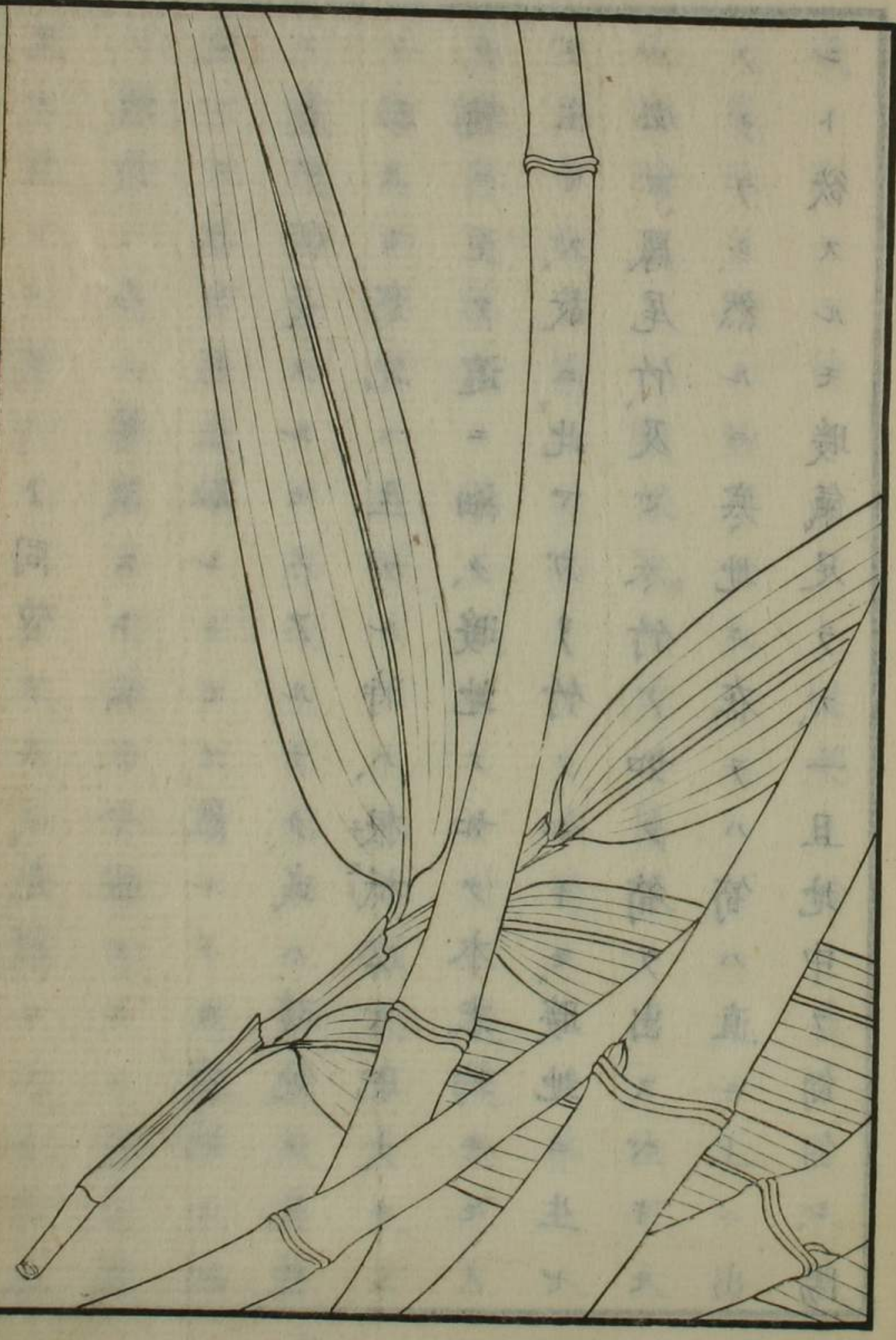
まがり笈け

北海道ニ産スルまがり竹ト名ルモノアリ、是レ
 ハ奥羽地方ニモアリ、蘆ニ近キ小竹ナリ、其鞭筍
 ノ末皆起テ竿トナル、故ニ其根ノ方ハ皆彎曲セ
 リ、此彎レルヲ見テ從來雪ニ壓セラル、所致ナ
 リト云ヘドモ、左ニアラズ、鞭筍ノ起テ本幹トナ

ル故ナリ、明治十年博覽會ノ時、福島縣ヨリ出セ
 ル岩代國安積郡赤津村産ノ布引竹ト云フアリ
 即まがり竹ニシテ、北海道産ノモノト同ジ、今博
 物館ニアリ、幹ノ長サ八尺餘、根ノ方太サ拇指ノ
 如シ葉ノ長七寸、闊サ一寸面滑澤ナリ、又越後ノ
 人某、まがり竹ノ事ヲ談ズルヲ聞クニ、越後ニテ
 ハ、方言ヂンダケ(陳竹ト書スル由)ト云フ此竹ハ
 女竹ノ性ニシテ長七八尺、根ノ末皆起リ本幹ト
 ナル、故ニ切り取りタルハ悉ク同様ニ彎ル、用テ
 垣ニシテ至極妙ナリ、筍ハ寒竹ト同ジク八月頃



まがりふけ



生ズ、然レバ寒竹ト同質ナルカ、越後ヨリ會津堺
ノ地、最モ多ク蕃茂スト云フ、今按ズルニ竹ハ寒
地ニモ亦自然生歟シトセズ、然レドモ暖地ノ如
ク、轟然舒長スルモノアルナク、或ハ暖地ノ良種
ヲ移スモ寒地ニ生ズル時ハ、根^{モト}抵^{モト}必ズ肥大ニシ
テ^テ梢^ノニ至テ^ニ遮^ニ細ク、暖地ノ如ク本末均キモノ
ヲ生ゼズ、故ニ此マガリ竹ノ如キモ、暖地ニ生ゼ
バ必ズ鳳尾竹、及ビ寒竹ノ如ク筍ヲ出スベキモ
ノヲラン、然ルニ寒地ニ在テハ筍ハ直ニ上ニ出
シト欲スルモ暖氣足ラズ、一旦地中ヲ匍匐シ、陽

氣ノ到ルヲ待テ而シテ後起テ幹ヲ成スナリ、是
レ寒地自然ノ妙用ナリ、
又實驗スルニ、鞭根ナキ竹ハ鬚根ヲ多ク生ジ、大
抵地中根下第三四節ノ所ヨリ筍ヲ生ジ第七八
節迄悉ク鬚根ヲ繁生ス、マガリ竹ノ筍、暖地ニ在
ラバ直ニ母竹ノ根節ヨリ生ジテ直長スベシ、若
シ鬚根ノ生ズベキ節、地上ニ出ルモ細瘤狀ヲナ
ス方竹寒竹ノ如クナルベシ、然ルニ寒地ニ在テ
ハ鬚根ノ生ズル毎節皆地中ヲ匍匐シテ鬚根悉
ク生ズルヲ待チ、始メテ提起シテ幹ヲ成スニ至

是レ根柢ノ悉ク彎曲スル所以ニシテ人以テ
 鞭根起テ幹ヲ成スト誤認スルモノナラン、該竹
 ハ鞭根ナキノ竹ナリ、暖地ニ産スル金山竹ノ如
 キハ地上ニ在テ母竹ノ每節筍ヲ生ズ、此筍竿ヲ
 成スノ後母竹ヨリ長大ナリ是レ暖地ノ然ラシ
 ムル所ナリ、

ふたまたまけ

ふたまたまけハ漢名天親竹、又雙竹、又雙岐竹、又
 合歡竹、又雙梢竹、駢竹、扶竹、相思竹、挑釵竹等ノ數
 名アリ、又瑞竹ト稱ス、此竹林中偶然ニ生ズルモ

ノアリ、猶樹木ノ二梢三梢四梢アルガ如シ、然レ
 ドモ樹ニ於テハ二三梢ノモノ常ニ見ル所ニシ
 テ珍トスルニ足ラズ、竹ニ在テハ稀ニ見ル所ナ
 リ故ニ之ヲ奇トシ、瑞竹ノ名アルニ至ル、天親竹
 ハ淡竹ニモアリ、苦竹ニモアリ、嘗テ根岸ノ花戸
 及ビ武州足立郡安行村ニ江南竹ノ雙梢ナルヲ
 裁ヘタルヲ見シトアリ、其竹根上、四五節ヨリ分
 レテ雙梢ヲナセリ、又時トシテ八十節十四節ヨ
 リ二梢ヲ爲スモノアリ、桂園竹譜ニ圖スル所一
 幹五梢、又八九梢ヨリ十八梢ニ岐ルモノアリ云

云

和漢三才圖會云雙岐竹攝州天王寺有之淡竹之
二岐者處々亦希有

大和本草云扶竹ハ雙竹對生ス王子敬カ竹譜ニ
出タリ其筍ヲ合歡ト云フ日本ニモ往々之レ有
リ瑯琊代醉ニ之ヲ載ス

桂園竹譜ニ云類同而種殊者竹為多杭州廣巖寺
有雙竹相比而生舉林皆然其尤異生古樹腹中自
其頂出森然竦樹如龍蛇相縈ト又云フ近時男谷
燕齊ノ庭砌ニ年フリシ枯松ノ腹中ヨリ其梢ヲ

貫キ出テ二枚ニ分レシ竹ハ細キ淡竹ニシテ其
狀頗廣巖寺中ニアリテ尤異ナル者トイヘル

暗合ノモノナリト
秘傳花鏡云雙竹生浙之武林西山其妙在篠篁嫩
篠對抽竝胤色最可愛

桂園竹譜ニ古書ヲ引テ一本雙莖一幹兩岐ノ竹
ヲ載スル枚舉ニ違アラズ今數梢ノモノヲ鈔ス
宋史五行志太平興國八年十月乙酉蜀州獻瑞竹
一本十六節上分兩岐

又云大中祥符八年四月開元寺桃竹一莖上分十

八節皆對生、婺原縣志云、萬歷丁未春、瑞竹生于玉川後龍山一本自十節以上分爲兩岐、節々相偶直上枝葉蓊盛

長沙府志云、寧宗慶元庚申安化縣治產瑞竹、一根三幹

按スルニ天親竹ハモト變生ナリ、之ヲ瑞トシ之ヲ妖トスルハ人ノ欲スル所ニ任シテ可ナリ、只移植ノ際、丁寧ニ根邊ノ宿土ヲ厚ク添ヘテ掘リ採リ繩ヲ以テ鄭重ニ之ヲ縛シテ之レヲ栽ユベシ、出六二味ニ分ニシテ竹ハ略ニ紫竹ニテ其

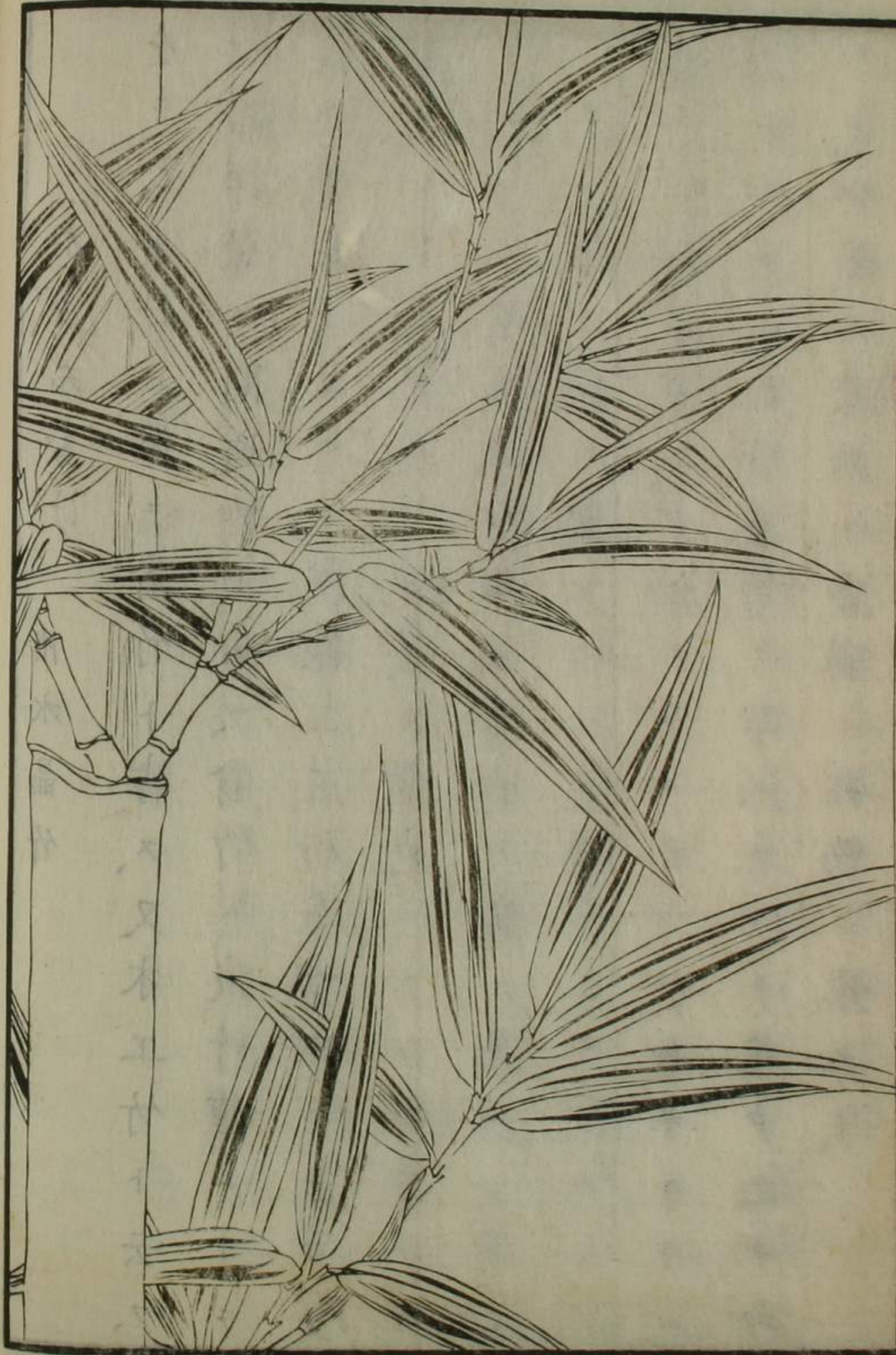
をまきおまけ

附水晶竹

をまきなまけハ俗ニ翁竹ト書ス、又木工竹ト云フ、竹譜詳録ニ間道竹ト云フ、翁竹ハ淡竹種ニシテ葉面葉裏淡黄白ノ縦線三五行青葉中ニアリテ甚美ナリ、梢葉及ビ嫩葉ハ青色ニシテ白筋ナキモノアリ、増補地錦鈔云、翁竹ハ葉ノ色白シ、青筋アリテ縞ノ如ク遠ク之ヲ見越シテナガムレバ、雪フリ竹ヲ見ルガ如ク、ヲシナベテ白キヤウニ見ユルナリ、此竹淡竹ノ布入ニシテ花戸之ヲ珍トス、今栽ル者尠シ、庭園ノ粧飾ニ妙ナリ、



をきなだけ





水晶竹

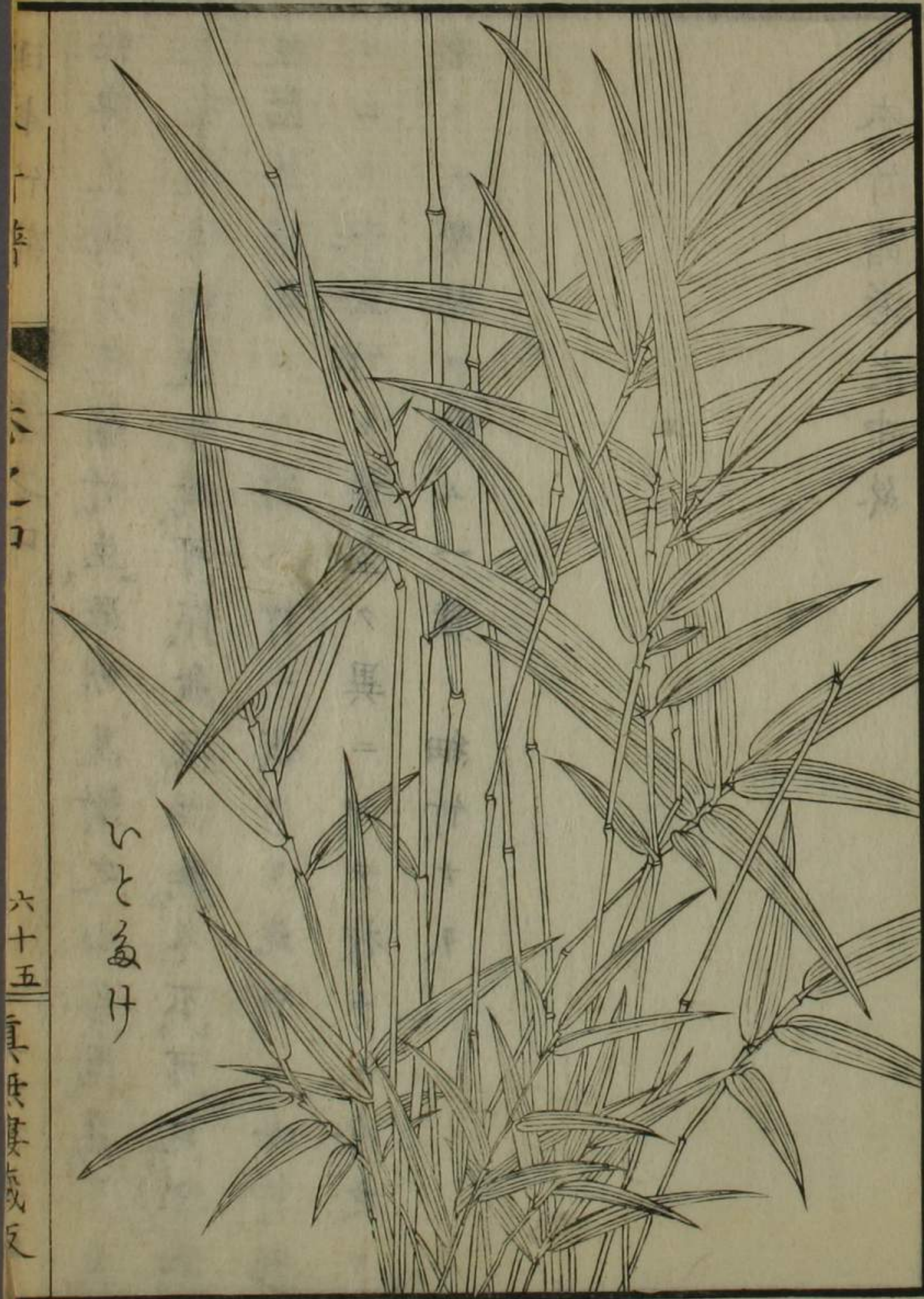


竹譜詳録云間道竹生兩浙山中、人家庭院亦有植之者、竿如水竹、節差密、葉如毛頭竹、頗瘦長、葉上有淡黃間道、綠細勒道、五七行、每叢或至十四五葉、又一種水晶竹、下稱スルモノアリ、淡竹種ニシテ翁竹ニ比スレバ、白線殊ニ闊クシテ純白ナリ、一名雪山竹ト云フ、此竹往年處々ノ花戸ニ栽植シテ蕃殖セシ由ナレドモ今見ルコトナシ

龍鬚竹

龍鬚竹一名龍綜竹ハ、往古舶載アリテ本邦産ノモノアルヲ聞カガリシガ、本年四月相州横須賀

ノ山中ニ於テ一種自然生ノ竹アルヲ見タリ、竹幹細小ニシテ針ノ如ク、又絲ノ如ク、葉モ小ニシテ尋常ノ筴ノ如シ、極メテ細小ナル竹莖密生シ小叢ヲナス、此竹他竹ニ異ナルハ細小ノ本莖ノミニシテ枝ヲ生ゼズ、樹下ニ生ズルモノハ差長クシテ葉ヲ生ズル尠シ、雪霜ニ逢フモノハ枯レテ、草蔭陽面ノ地ニ在テ雪霜ヲ見ザルモノハ冬ヲ越ルモ半バ枯レテ半バ榮ユ、其枯レタルモノモ四月頃ハ既ニ新幹ヲ叢生セリ、土人之ヲイトダケト稱ス、是レ龍鬚竹ノ類ニアラザル歟



いと多け

六十五
真氏集



柱園竹譜二圖之龍鬚竹

柱園竹譜

卷之中

真氏集

秘傳花鏡云、龍鬚竹、生辰州及浙之山谷間、高不盈尺、而枝幹細、僅如針、可作盆玩、但逢冬、不可見、雪霜挂園竹譜圖スル所ハ竹ニ枝アリ此竹ハ女竹性ニシテ千里竹ト種全ク異ニシテ枝ナシ、今之ヲ栽ヘテ榮枯ヲ試ム一種ノ細竹ナリ、

日本竹譜卷之中終

